

# 市民アンケート調査結果

## 1. 調査方法

船橋市内在住の満18歳以上の市民計3,000人を対象とし、調査対象の抽出方法は、多段抽出（地域、年齢、性別）とした。

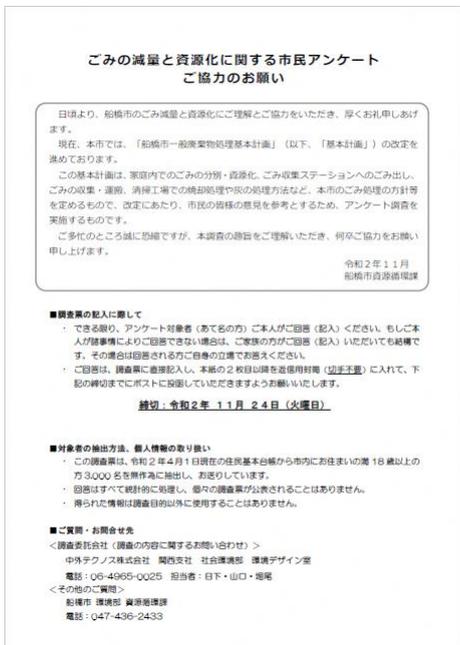
調査方法は、郵送によりアンケート用紙を配布し、返信された回答用紙についてデータ整理を行った。また、回収率の向上を目的として、お礼状をアンケート発送の2週間後に発送した。

## 2. 調査スケジュール

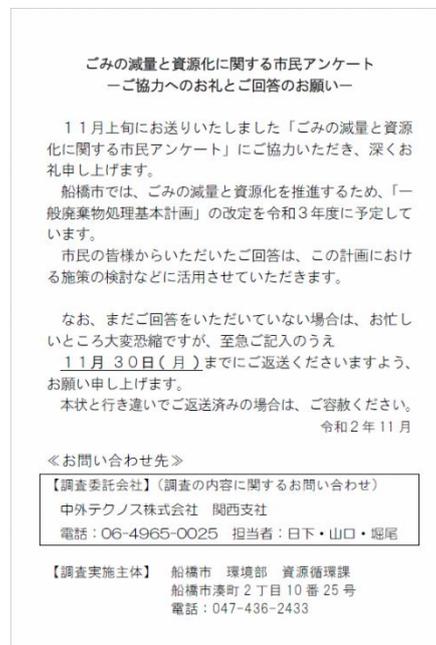
・ アンケート発送	: 2020年11月6日（金）
・ お礼状の発送	: 2020年11月20日（金）
・ アンケート回収期限	: 2020年11月30日（月）

アンケートの回収率は、58.3%であった。アンケート回収状況について以下に示す。

・ アンケート発送数	: 3,000件	
・ 無効数（宛先不明等）	: 7件	
・ 有効数	: 2,993件	（アンケート発送数－無効数）
・ アンケート回収数	: 1,745件	
・ アンケート回収率	: 58.3%	（アンケート回収数÷有効数）



アンケート案内状



お礼状

3. アンケートの設問内容 実施したアンケートの設問内容を以下に示す。

I あなた自身とご家族について			
	問 1	(1) 性別	
		(2) 年齢	
		(3) 居住年数	
	問 2	(1) 世帯員数	
		(2) 紙おむつの使用有無	
		(3) 紙おむつ使用世帯状況	
		(4) 紙おむつ使用者（乳幼児）数	
		(5) 紙おむつ使用者（乳幼児以外）数	
	問 3	(1) 住居形態	
		(2) 集合住宅建物敷地内のごみ収集ステーションの有無	
	問 4	(1) 居住町名	
	II 家庭ごみの分別・処理について		
	問 5	(1) 資源物の分別状況	
		(2) 分別をしていない理由	
	問 6	(1) 市の分別収集以外の資源物の主な排出先	
	問 7	(1) 雑がみの分別状況	
		(2) 雑がみとして分別している品目	
		(3) 雑がみの分別をしていない理由	
	III ごみの減量化や処理に関する情報提供について		
		問 8	(1) ごみに関する情報の入手先
		問 9	(1) 不足していると思う情報
	(2) 望ましいと思う周知方法		
IV 家庭から出る可燃ごみの有料化について			
	問 10	(1) 家庭から出る可燃ごみの有料化への意向	
	問 11	(1) 家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべき理由	
	問 12	(1) 家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべきではない理由	
V プラスチック製容器包装の分別収集について			
	問 13	(1) プラスチック製容器包装の分別収集への意向	
	問 14	(1) プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由	
	問 15	(1) プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由	
VI 食品ロスの削減について			
	問 16	(1) 食品ロスの認知状況	
	問 17	(1) 食品ロス削減のための家庭での取組	
	問 18	(1) 食品ロス削減のための外食時での取組	
VII ごみ問題への関心について			
	問 19	(1) 市が実施している取組の認知状況	
	問 20	(1) ごみに関しての困りごと	
VIII 現在と今後の取組について			
	問 21	(1) 現在実施している取組	
		(2) 今後実施予定の取組	
自由意見			

## 4. 集計結果

実施したアンケートの調査結果を以下に示す。各設問の「未回答」には無効回答を含む。単一回答の設問において、複数の回答を選択されていた場合は無効回答とした。また、構成比は四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

### < I あなた自身とご家族について >

あなたの性別と年齢、船橋市での居住年数をお答えください。

#### (1) 性別

回答者の性別についてみると、「1. 男」が38.3%、「2. 女」が61.2%と、「2. 女」の割合の方が大きくなった。

表 3-1 性別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 男	669	38.3%
2. 女	1,068	61.2%
3. その他	1	0.1%
未回答	7	0.4%
合計	1,745	100.0%

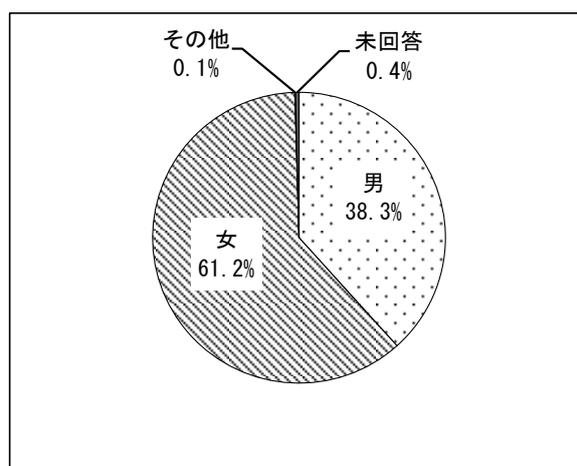


図 3-1 性別回答数

#### (2) 年齢

回答者の年代についてみると、「7. 70代以上」が28.9%と最も多く、次いで「4. 40代」が18.2%、「5. 50代」が17.2%であった。また、「1. 10代」及び「2. 20代」は合計で9.6%と、割合は小さくなった。

表 3-2 年代別回答数

選択肢	回答数	構成比	(参考) 人口比※
18歳未満	—	—	16.1%
1. 10代	30	1.7%	1.8%
2. 20代	138	7.9%	11.3%
3. 30代	192	11.0%	12.3%
4. 40代	318	18.2%	16.3%
5. 50代	301	17.2%	13.7%
6. 60代	254	14.6%	9.7%
7. 70代以上	504	28.9%	18.8%
未回答	8	0.5%	—
合計	1,745	100.0%	100.0%

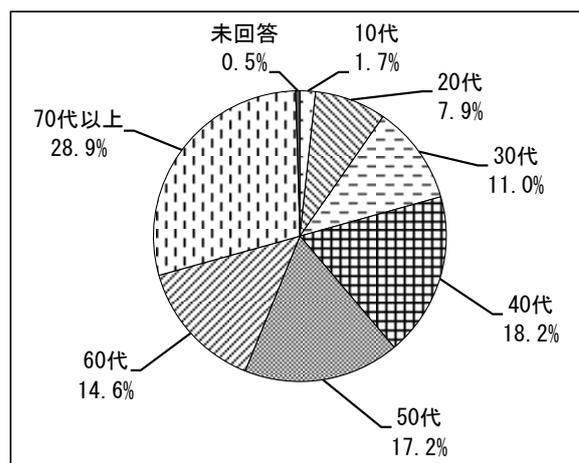


図 3-2 年代別回答数

※令和2年10月1日現在

※1. 10代は18~19歳

(3) 居住年数

回答者の居住年数についてみると、「6. 30年以上」が41.9%と最も多く、次いで「4. 10年以上～20年未満」が19.7%、「5. 20年以上～30年未満」が17.3%の順であった。また、「1. 2年未満」の新規転入者は2.7%であった。

問1の2) 年齢(年代)において「7. 70代以上」の割合が大きかったことから、居住年数も「6. 30年以上」の割合が大きくなっている可能性が考えられる。

表 3-3 居住年数別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 2年未満	47	2.7%
2. 2年以上～5年未満	124	7.1%
3. 5年以上～10年未満	194	11.1%
4. 10年以上～20年未満	344	19.7%
5. 20年以上～30年未満	302	17.3%
6. 30年以上	731	41.9%
未回答	3	0.2%
合計	1,745	100.0%

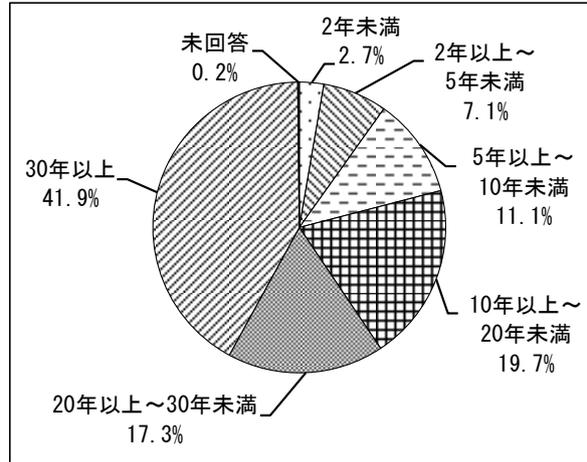


図 3-3 居住年数別回答数

あなたを含め同居している世帯員の人数と、乳児または高齢者の方などで紙おむつを使用している方の有無及びその人数についてお答えください。

(1) 世帯員数

回答者の世帯員数についてみると、「2. 2人」が32.6%と最も多く、次いで「3. 3人」が26.3%、「4. 4人」が21.4%の順であった。また、単身世帯は11.4%であった。

表 3-4 世帯員数別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 1人	199	11.4%
2. 2人	568	32.6%
3. 3人	459	26.3%
4. 4人	374	21.4%
5. 5人	90	5.2%
6. 6人	26	1.5%
7. 7人	5	0.3%
8. 8人	2	0.1%
9. 9人	1	0.1%
未回答	21	1.2%
合計	1,745	100.0%

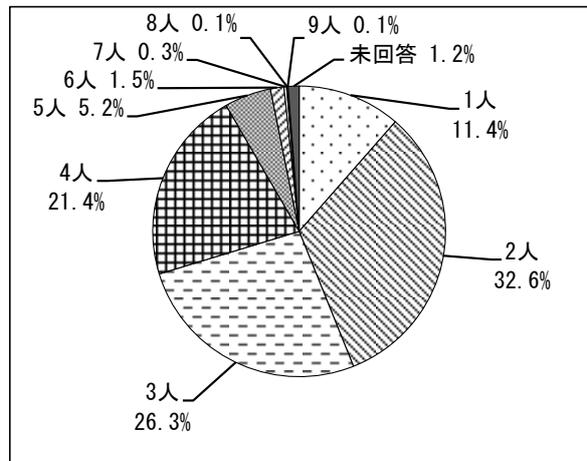


図 3-4 世帯員数別回答数

(2) 紙おむつの使用有無

各世帯で紙おむつを使用している方の有無についてみると、紙おむつを使用している世帯は10.9%であった。

表 3-5 紙おむつの使用有無別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 使用していない	1,499	85.9%
2. 使用している	191	10.9%
未回答	55	3.2%
合計	1,745	100.0%

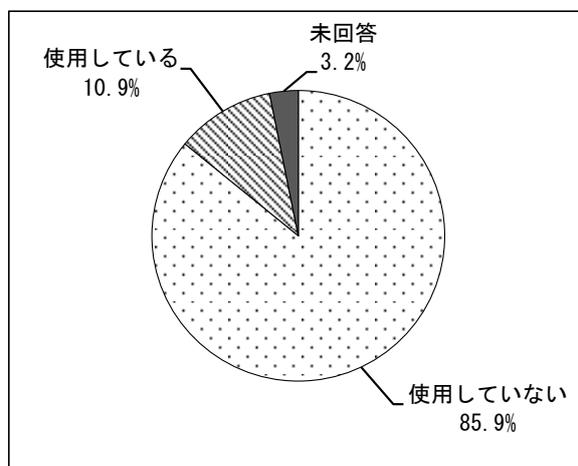


図 3-5 紙おむつの使用有無別回答数

(3) 紙おむつ使用世帯状況

紙おむつ使用者を乳幼児と乳幼児以外別にみると、「1. 乳幼児がいる世帯」は53.9%、「2. 乳幼児以外の方がいる世帯」は44.5%、「3. 乳幼児及び乳幼児以外がいる世帯」は1.6%であった。

表 3-6 紙おむつ使用世帯状況別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 乳幼児	103	53.9%
2. 乳幼児以外	85	44.5%
3. 乳幼児及び乳幼児以外	3	1.6%
未回答	0	0.0%
合計	191	100.0%

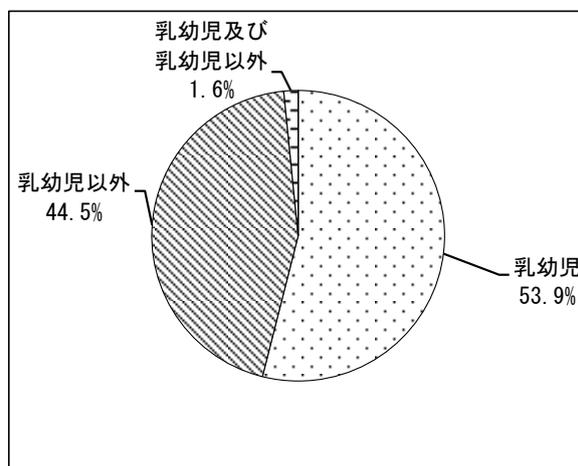


図 3-6 紙おむつ使用世帯状況別回答数

(4) 紙おむつ使用者数（乳幼児）

紙おむつを使用している乳幼児がいる世帯は 106 世帯で、使用者数は合計 121 人であった。また、紙おむつを使用している乳幼児の、1 世帯当たりの人数は、「1. 1人」が 86.8%と大半を占めており、「2. 2人」が 12.3%、「3. 3人」が 0.9%であった。4 人以上の回答はなかった。

表 3-7 紙おむつ使用者数（乳幼児）  
別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 1人	92	86.8%
2. 2人	13	12.3%
3. 3人	1	0.9%
合計	106	100.0%

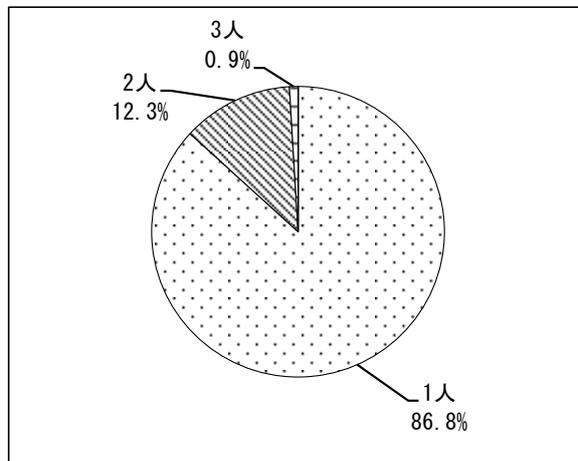


図 3-7 紙おむつ使用者数（乳幼児）別  
回答数

(5) 紙おむつ使用者数（乳幼児以外）

乳幼児以外で紙おむつを使用している世帯は 88 世帯で、使用者数は合計 93 人であった。また、紙おむつを使用している方（乳幼児以外）の 1 世帯当たりの人数は、「1. 1人」が 94.3%であり、「2. 2人」が 5.7%であった。3 人以上の回答はなかった。

表 3-8 紙おむつ使用者数（乳幼児以外）  
別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 1人	83	94.3%
2. 2人	5	5.7%
合計	88	100.0%

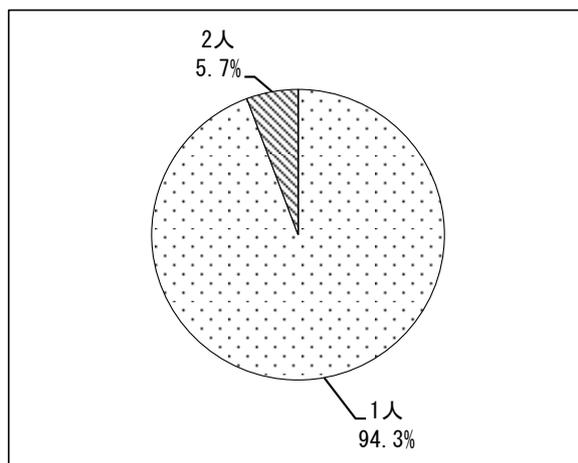


図 3-8 紙おむつ使用者数（乳幼児以外別）  
回答数

あなたのお住まいの形態とごみ収集ステーションについてお答えください。

(1) 居住形態

回答者の居住形態についてみると、「1. 集合住宅（長屋建てを含む）」が43.1%、「2. 戸建て住宅」が54.8%と、「2. 戸建て住宅」の割合の方が大きくなった。

表 3-9 居住形態別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 集合住宅(長屋建て含む)	752	43.1%
2. 戸建て住宅	956	54.8%
未回答	37	2.1%
合計	1,745	100.0%

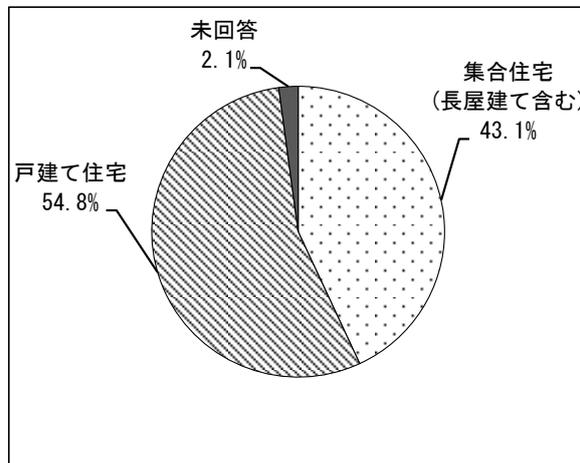


図 3-9 居住形態別回答数

(2) 集合住宅建物敷地内のごみ収集ステーションの有無

上記の質問で「1. 集合住宅（長屋建てを含む）」と回答された方について、建物敷地内のごみ収集ステーションの有無についてみると、「1. ある」が95.9%、「2. ない」が3.2%と、95%以上の集合住宅においてごみ収集ステーションが設置されている。

表 3-10 集合住宅建物敷地内のごみ収集ステーションの有無別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. ある	721	95.9%
2. ない	24	3.2%
未回答	7	0.9%
合計	752	100.0%

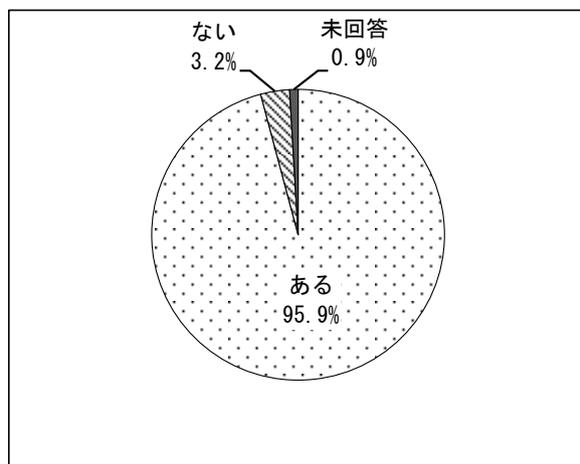


図 3-10 集合住宅建物敷地内のごみ収集ステーションの有無別回答数

あなたのお住いの住所をお答えください。

(1) 居住地域

回答者の居住地域について、5つの行政ブロックで比較すると、南部が17.4%、西部が24.3%、中部が13.0%、東部が27.1%、北部が17.1%であった。

表 3-11 居住地域別回答数

区域	回答数	構成比	(参考) 人口比※
南部	304	17.4%	18.8%
西部	424	24.3%	24.4%
中部	226	13.0%	12.9%
東部	473	27.1%	27.0%
北部	299	17.1%	16.9%
未回答	19	1.1%	—
合計	1,745	100.0%	100.0%

※令和2年10月1日現在

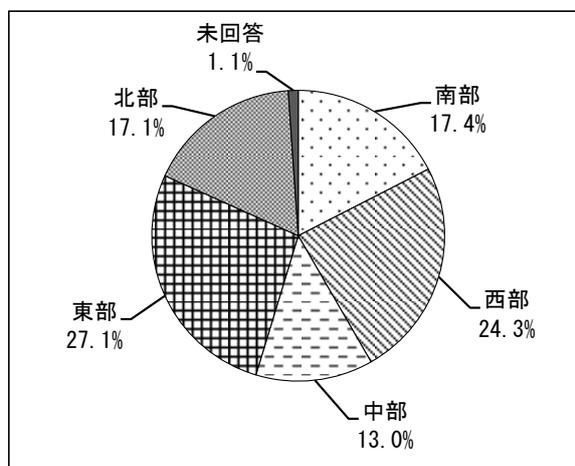


図 3-11 居住地域別回答数

【24 地区コミュニティ別町丁目】

行政 ブロック	地区 コミュニティ	町丁目
南部	湊町	本町3丁目、若松1~3丁目、浜町1~3丁目、湊町1~3丁目、日の出1~2丁目、西浦1~3丁目、栄町1~2丁目、潮見町、高瀬町
	宮本	宮本1~9丁目、市場1~5丁目、駿河台1~2丁目、東船橋1~7丁目、東町
	本町	本町1~2丁目・4~7丁目
	海神	海神1~6丁目、海神町2~3丁目、海神町西1丁目、海神町東1丁目、海神町南1丁目、南海神1~2丁目、南本町
西部	葛飾	印内1~3丁目、印内町、葛飾町2丁目、古作1~4丁目、古作町、山野町、西船1~7丁目、東中山1~2丁目、本郷町
	中山	二子町、本中山1~7丁目
	塚田	旭町1~6丁目、旭町（住居表示外）、行田1~3丁目、行田町、山手1~3丁目、前貝塚町、北本町1~2丁目
	法典	丸山1~5丁目、上山町1~3丁目、藤原1~8丁目、馬込町、馬込西1~3丁目
中部	夏見	夏見1~7丁目、夏見台1~6丁目、米ヶ崎町、夏見町2丁目
	高根・金杉	金杉1~9丁目、金杉台1~2丁目、金杉町、高根町、緑台1~2丁目
	高根台	高根台1~6丁目
	新高根・芝山	芝山1~7丁目、新高根1~6丁目、高根台7丁目
東部	前原	前原西1~8丁目、前原東1~6丁目、中野木1~2丁目
	三山・田喜野井	三山1~9丁目、習志野1~5丁目、田喜野井1~7丁目
	二宮・飯山満	滝台1~2丁目、滝台町、二宮1~2丁目、飯山満町1~3丁目
	薬円台	七林町、薬円台1~6丁目、薬園台町1丁目
	習志野台	習志野台1~8丁目、習志野台4丁目（住居表示外）、西習志野1~4丁目
北部	二和	二和西1~6丁目、二和東1~6丁目
	三咲	三咲1~9丁目、三咲町、南三咲1~4丁目
	八木が谷	みやぎ台1~4丁目、高野台1~5丁目、咲が丘1~4丁目、八木が谷1~5丁目、八木が谷町
	松が丘	松が丘1~5丁目
	大穴	大穴町、大穴南1~5丁目、大穴北1~8丁目
	豊富	金堀町、古和釜町、車方町、小室町、小野田町、神保町、大神保町、楠が山町、豊富町、鈴身町
	坪井	坪井西1~2丁目、坪井町、坪井東1~6丁目

出典：第2期船橋市子ども・子育て支援事業計画

## < II 家庭ごみの分別・処理について >

以下の品目について、あなたはどのようにごみを分別していますか。

### (1) 資源物の分別状況

資源物の分別状況について「1. きちんと分別している」と回答された割合は大きく、スプレー缶が81.6%、鍋・やかん等が76.8%、乾電池が72.8%、蛍光管が68.8%、割れた蛍光管が58.3%、小型家電が53.8%、充電式電池が47.6%であった。

また、「3. あまり分別していない」または「4. 分別していない」と回答された割合は、小型家電で8.2%、乾電池で7.6%、充電式電池で6.9%、割れた蛍光管で4.1%、蛍光管で3.9%、鍋・やかん等で3.3%、スプレー缶で1.8%であった。

表 3-12 品目別の資源物の分別状況

選択肢		1. きちんと分別している	2. だいたい分別している	3. あまり分別していない	4. 分別していない	5. ごみとして出したことがない	未回答	合計
小型家電	回答数	938	176	74	70	410	77	1,745
	構成比	53.8%	10.1%	4.2%	4.0%	23.5%	4.4%	100.0%
充電式電池	回答数	830	146	62	57	568	82	1,745
	構成比	47.6%	8.4%	3.6%	3.3%	32.6%	4.7%	100.0%
鍋・やかん等	回答数	1,340	131	32	26	158	58	1,745
	構成比	76.8%	7.5%	1.8%	1.5%	9.1%	3.3%	100.0%
スプレー缶	回答数	1,424	148	19	12	81	61	1,745
	構成比	81.6%	8.5%	1.1%	0.7%	4.6%	3.5%	100.0%
蛍光管	回答数	1,201	190	30	38	224	62	1,745
	構成比	68.8%	10.9%	1.7%	2.2%	12.8%	3.6%	100.0%
割れた蛍光管	回答数	1,017	164	38	33	426	67	1,745
	構成比	58.3%	9.4%	2.2%	1.9%	24.4%	3.8%	100.0%
乾電池	回答数	1,271	220	60	73	62	59	1,745
	構成比	72.8%	12.6%	3.4%	4.2%	3.6%	3.4%	100.0%

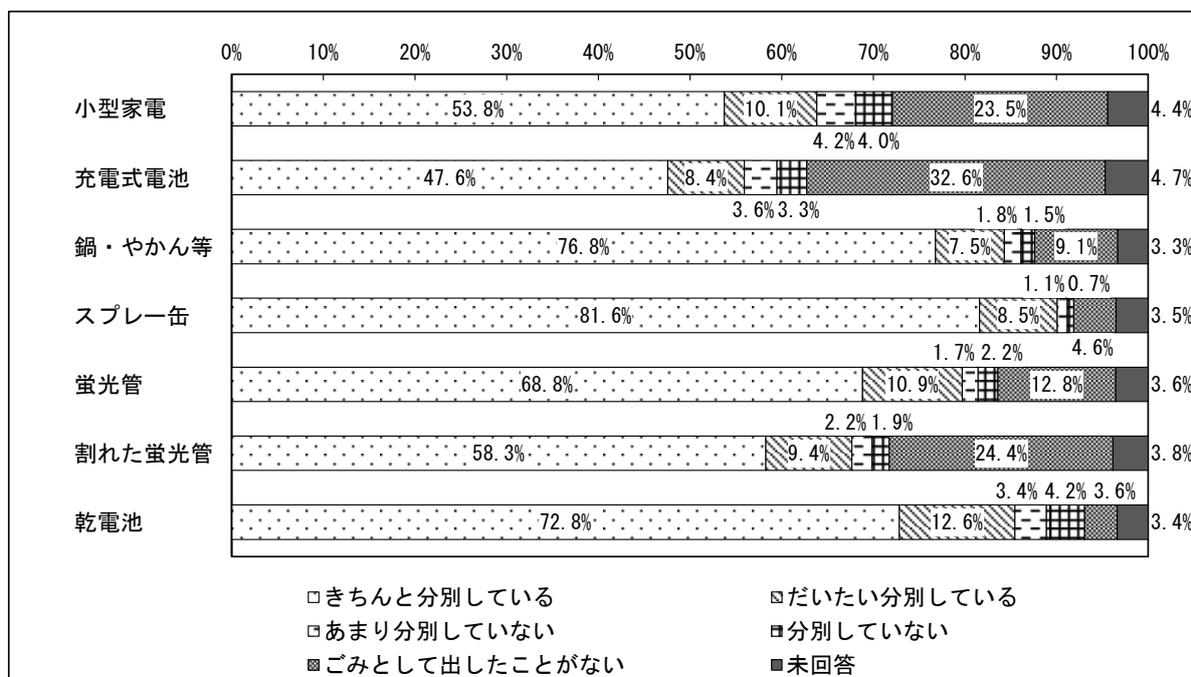


図 3-12 品目別の資源物の分別状況

(2) 分別をしていない理由

問5の1)で「3. あまり分別していない」または「4. 分別していない」と回答された方で、分別をしていない主な理由は、小型家電、充電式電池では、「②分別や排出方法がわからないため」や「⑤小型家電回収ボックスが近くにないから」の割合が大きく、鍋・やかん等、蛍光管、割れた蛍光管、乾電池では、「②分別や排出方法がわからないため」の割合が大きくなった。また、スプレー缶では「②分別や排出方法がわからないため」に加えて「①面倒だから」の割合が大きくなった。

表 3-13 品目別の分別をしていない理由

選択肢		①面倒だから	②分別や排出方法がわからないため	③ごみの減量やリサイクルに関心がないから	④少量であれば問題ないと思うから	⑤小型家電回収ボックスが近くにないから	⑥その他	未回答	合計
		小型家電	回答数	7	39	1	1		
	構成比	4.9%	27.1%	0.7%	0.7%	30.6%	31.3%	4.9%	100.0%
充電式電池	回答数	7	46	0	1	24	35	6	119
	構成比	5.9%	38.7%	0.0%	0.8%	20.2%	29.4%	5.0%	100.0%
鍋・やかん等	回答数	2	29	0	0	0	23	4	58
	構成比	3.4%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	39.7%	6.9%	100.0%
スプレー缶	回答数	5	8	0	2	0	14	2	31
	構成比	16.1%	25.8%	0.0%	6.5%	0.0%	45.2%	6.5%	100.0%
蛍光管	回答数	2	38	0	1	2	24	1	68
	構成比	2.9%	55.9%	0.0%	1.5%	2.9%	35.3%	1.5%	100.0%
割れた蛍光管	回答数	5	43	0	0	2	20	1	71
	構成比	7.0%	60.6%	0.0%	0.0%	2.8%	28.2%	1.4%	100.0%
乾電池	回答数	6	61	0	9	6	45	6	133
	構成比	4.5%	45.9%	0.0%	6.8%	4.5%	33.8%	4.5%	100.0%

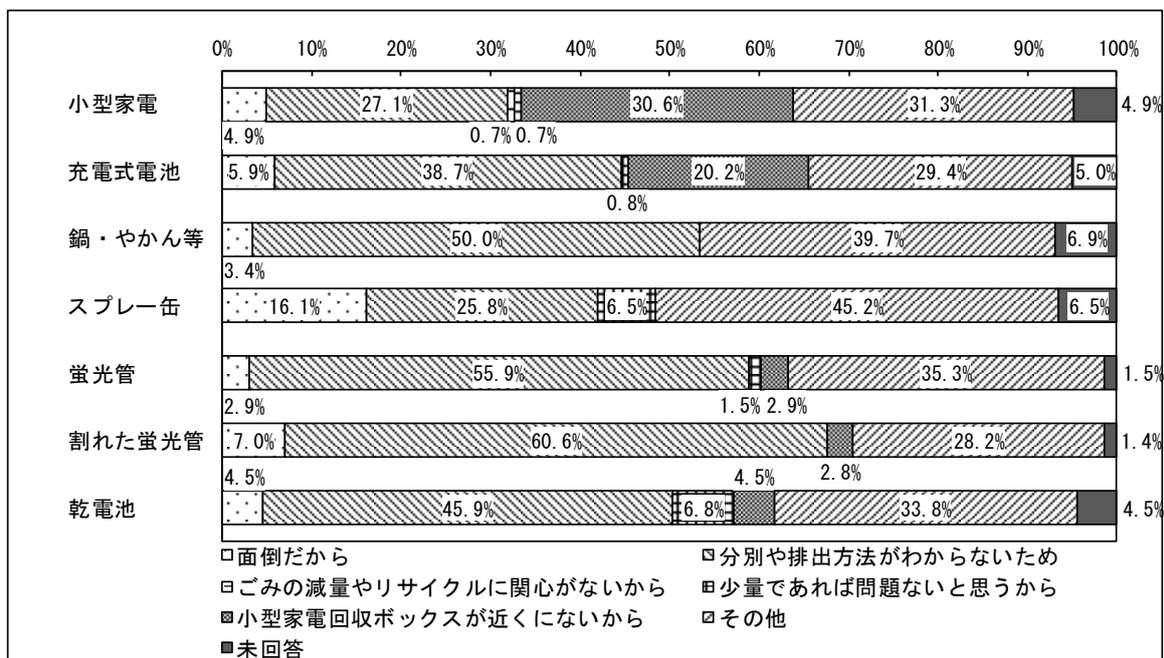


図 3-13 品目別の分別をしていない理由

以下の品目について、市の分別収集に出さない場合の排出先をお答えください。

(1) 市の分別収集以外の資源物の主な排出先（複数回答）

市の分別収集に出さない場合の主な排出先は、雑誌・雑がみ、ダンボール、古着では、「1. 有価物回収」の回答が多くなった。新聞・チラシは「1. 有価物回収」「3. 新聞業者の回収」の回答が多くなった。また、牛乳パックは、「1. 有価物回収」「2. スーパーなどの店頭回収」「4. その他」の回答が多くなっており、「4. その他」としては「出さない」や「可燃ごみとして出す」といった回答が多くみられた。ペットボトル、空カン・空ビンでは「4. その他」として「市の分別収集以外では出さない」といった回答が多くみられ、プラスチックトレイ類では「4. その他」として「可燃ごみとして出す」といった回答が多くみられた。

表 3-14 品目別の市の分別収集以外の資源物の主な排出先

選択肢		1. 有価物回収	2. スーパーなどの店頭回収	3. 新聞業者の回収	4. その他※	未回答	合計
新聞・チラシ	回答数	694	34	525	341	187	1,781
雑誌・雑がみ	回答数	1,110	54		296	299	1,759
ダンボール	回答数	1,217	51		210	273	1,751
牛乳パック	回答数	578	393		468	321	1,760
古着	回答数	1,105	30		346	280	1,761
ペットボトル	回答数		408		341	1,004	1,753
空カン・空ビン	回答数		294		370	1,082	1,746
プラスチックトレイ類	回答数		437		348	963	1,748

※「4. その他」の回答には、「（ごみとして）出ない、出さない」という記載が多くみられた。

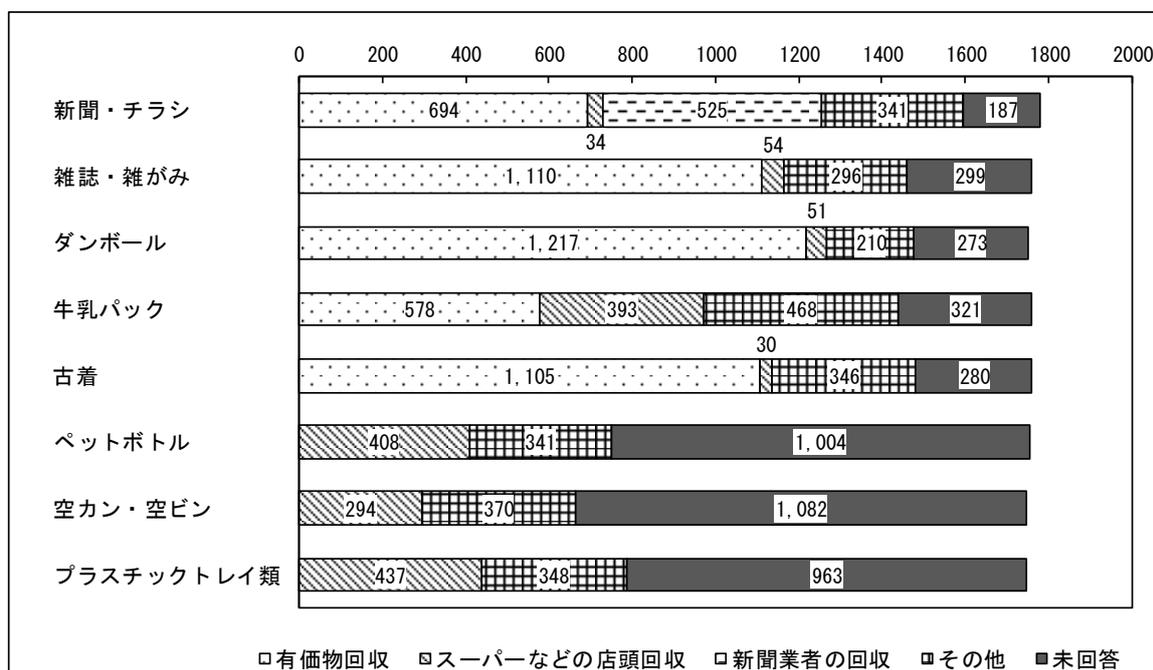


図 3-14 品目別の市の分別収集以外の資源物の主な排出先

有価物の雑がみについて、あなたはどのように処理をしていますか。

(1) 雑がみの分別状況

雑がみの分別について、「1. きちんと分別している」または「2. だいたい分別している」の割合は60.8%、「3. あまり分別していない」または「4. 分別していない」の割合は36.9%であった。

表 3-15 雑がみの分別状況

選択肢	回答数	構成比
1. きちんと分別している	496	28.4%
2. だいたい分別している	566	32.4%
3. あまり分別していない	326	18.7%
4. 分別していない	318	18.2%
未回答	39	2.2%
合計	1,745	100.0%

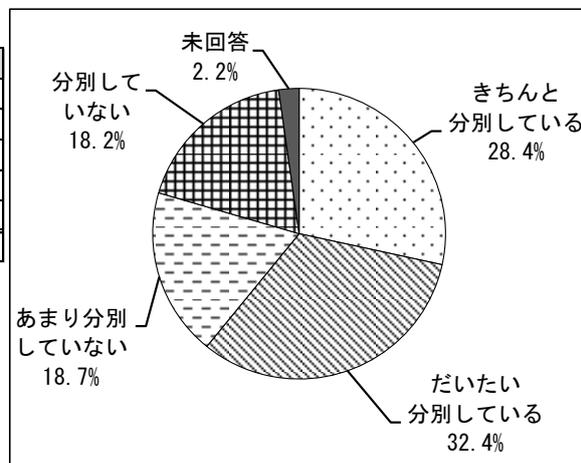


図 3-15 雑がみの分別状況

(2) 雑がみとして分別している品目（複数回答）

問7の1)で「1. きちんと分別している」または「2. だいたい分別している」と回答された方が分別している品目は、「②菓子や食品の箱」が最も多く77.2%、次いで「①ティッシュ箱」が70.1%であった。また、半数以上が分別している品目は、割合が大きい順に、「②菓子や食品の箱」「①ティッシュ箱」「④紙袋」「③カレンダー」「⑦包装紙や折り紙」「⑤ラップ・トイレットペーパーの芯」であった。

表 3-16 雑がみとして分別している品目

選択肢	回答数	回答割合
①ティッシュ箱（ビニール除く）	744	70.1%
②菓子や食品の箱	820	77.2%
③カレンダー（金具などは除く）	579	54.5%
④紙袋（持ち手が紙以外の場合は持ち手を除く）	637	60.0%
⑤ラップ・トイレットペーパーの芯	543	51.1%
⑥封筒・ハガキ	384	36.2%
⑦包装紙や折り紙	568	53.5%
⑧タグや名刺	190	17.9%
⑨プリント用紙	389	36.6%
⑩その他	44	4.1%
未回答	33	3.1%
合計	4,931	—
回答者数	1,062	—

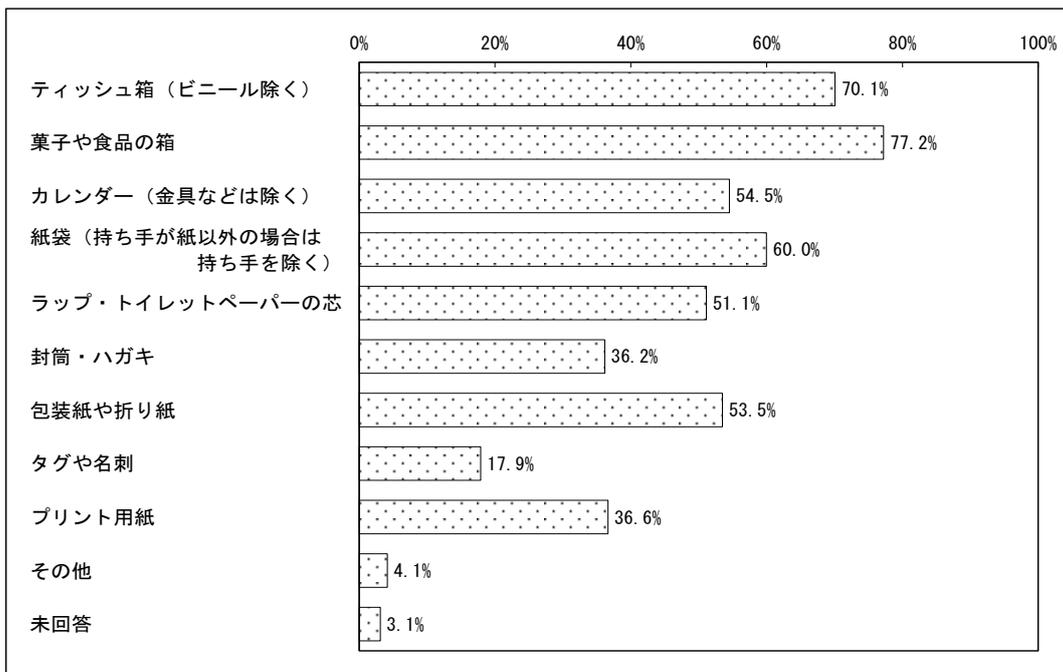


図 3-16 雑がみとして分別している品目

(3) 雑がみの分別をしていない理由（複数回答）

問7の1)で「3. あまり分別していない」または「4. 分別していない」と回答された方が、雑がみを分別していない理由は、「②分別や排出方法がわからないから」が最も多く43.8%、次いで「④少量であれば問題ないと思うから」が27.0%、「①面倒だから」が25.2%の順であった。

表 3-17 雑がみの分別をしていない理由

選択肢	回答数	回答割合
①面倒だから	162	25.2%
②分別や排出方法がわからないから	282	43.8%
③ごみの減量やリサイクルに関心がないから	15	2.3%
④少量であれば問題ないと思うから	174	27.0%
⑤その他	88	13.7%
未回答	10	1.6%
合計	731	—
回答者数	644	—

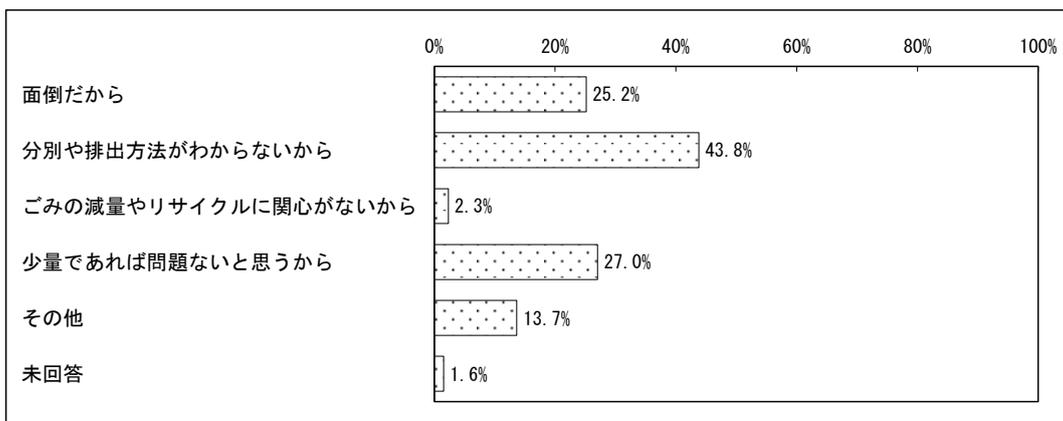


図 3-17 雑がみの分別をしていない理由

### ＜Ⅲ ごみの減量化や処理に関する情報提供について＞

市のごみに関する情報は何かから得ていますか。

(1) ごみに関する情報の入手先（複数回答）

市のごみに関する情報の入手先は、「2. 家庭ごみの出し方（ごみの出し方カレンダー）」が最も多く74.2%であった。次いで「1. 広報ふなばし」が34.6%、「7. 資源物とごみの分別ガイド」が28.5%、「4. 船橋市ホームページ」が21.1%の順であった。

「8. スマートフォン向けごみ分別アプリ」は4.0%と割合が小さくなった。これは、本アンケートの回答者が、一般的にICT等による新サービスの利用度が若年層と比較して低いと考えられる「70代以上」の占める割合が大きいことも影響しているものと考えられる。なお、「10. その他」の回答としては、「家族」といった回答がみられた。

表 3-18 ごみに関する情報の入手先

選択肢	回答数	回答割合
1. 広報ふなばし	603	34.6%
2. 家庭ごみの出し方（ごみの出し方カレンダー）	1,294	74.2%
3. リサちゃんだより+（プラス）	140	8.0%
4. 船橋市ホームページ	369	21.1%
5. 地区・地域での説明会	20	1.1%
6. 市主催のイベント等	5	0.3%
7. 資源物とごみの分別ガイド	497	28.5%
8. スマートフォン向けごみ分別アプリ「さんあ〜る」	70	4.0%
9. 地域の回覧板	113	6.5%
10. その他	40	2.3%
未回答	89	5.1%
合計	3,240	-
回答者数	1,745	-

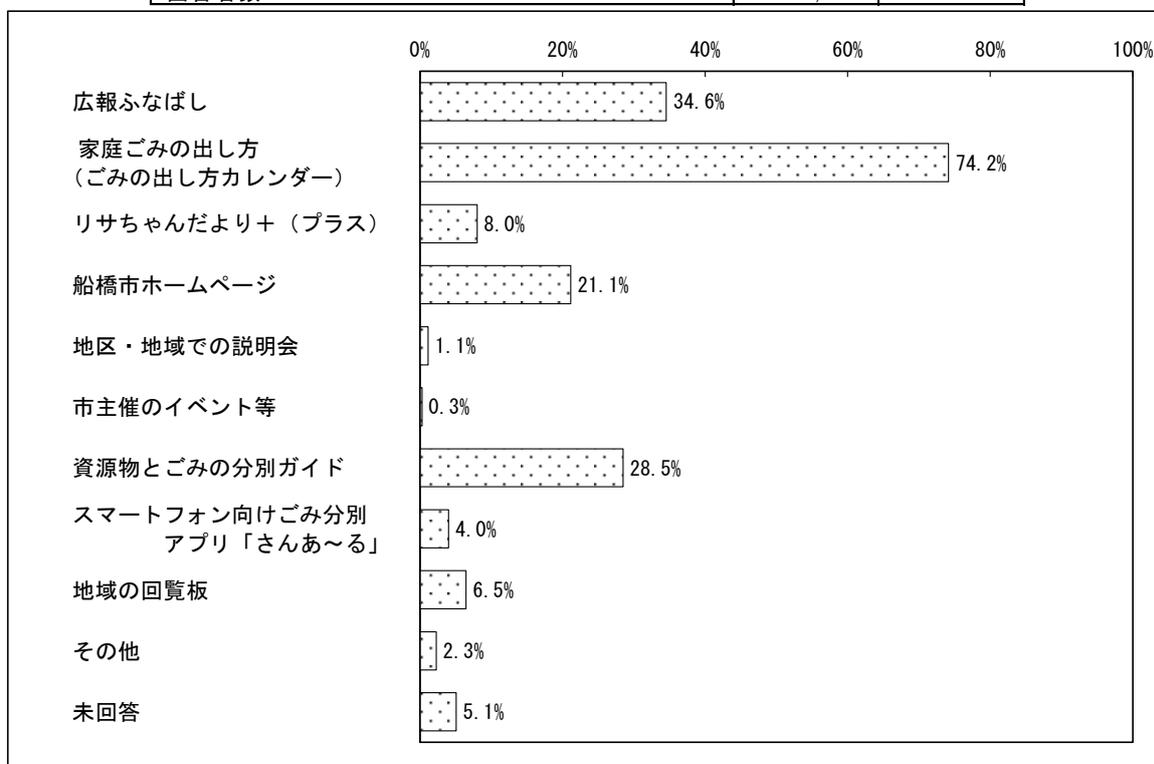


図 3-18 ごみに関する情報の入手先

## 【クロス集計】

市のごみに関する情報の入手先について、年代別に傾向をみると、「2. 家庭ごみの出し方（ごみの出し方カレンダー）」は、どの年代においても60%以上となった。「1. 広報ふなばし」は20代、30代では20%以下と小さく、年代が上がるにつれて大きくなる傾向がみられた。「7. 資源物とごみの分別ガイド」は30代以上の年代では20%以上となっているが、10代、20代では20%以下と小さくなった。「4. 船橋市ホームページ」は30代、40代は30%以上、10代、20代、50代は20%以上となっているが、60代以上は20%以下となった。

表 3-19 ごみに関する情報の入手先—年代別

選択肢	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		未回答	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合										
1. 広報ふなばし	7	23.3%	16	11.6%	26	13.5%	80	25.2%	97	32.2%	109	42.9%	263	52.2%	5	62.5%
2. 家庭ごみの出し方 （ごみの出し方カレンダー）	20	66.7%	84	60.9%	124	64.6%	231	72.6%	250	83.1%	203	79.9%	375	74.4%	7	87.5%
3. リサちゃんだより+（プラス）	3	10.0%	6	4.3%	8	4.2%	16	5.0%	29	9.6%	23	9.1%	55	10.9%	0	0.0%
4. 船橋市ホームページ	6	20.0%	39	28.3%	74	38.5%	111	34.9%	76	25.2%	31	12.2%	32	6.3%	0	0.0%
5. 地区・地域での説明会	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%	2	0.6%	3	1.0%	2	0.8%	11	2.2%	0	0.0%
6. 市主催のイベント等	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.8%	0	0.0%
7. 資源物とごみの分別ガイド	5	16.7%	19	13.8%	56	29.2%	73	23.0%	85	28.2%	96	37.8%	161	31.9%	2	25.0%
8. スマートフォン向けごみ 分別アプリ「さんあ〜る」	0	0.0%	6	4.3%	17	8.9%	15	4.7%	20	6.6%	7	2.8%	5	1.0%	0	0.0%
9. 地域の回覧板	1	3.3%	12	8.7%	7	3.6%	18	5.7%	12	4.0%	15	5.9%	48	9.5%	0	0.0%
10. その他	2	6.7%	6	4.3%	10	5.2%	2	0.6%	8	2.7%	7	2.8%	5	1.0%	0	0.0%
未回答	1	3.3%	7	5.1%	6	3.1%	13	4.1%	7	2.3%	10	3.9%	44	8.7%	1	12.5%
合計	45	—	197	—	328	—	562	—	587	—	503	—	1,003	—	15	—
回答者数	30	—	138	—	192	—	318	—	301	—	254	—	504	—	8	—

ごみに関して、どのような情報が不足していると思いますか。また、その情報はどのように周知していきるのが望ましいと思いますか。

(1) 不足していると思う情報（複数回答）

ごみに関する情報で不足していると思われるのは、「1. ごみの分別排出方法」が最も多く30.1%、次いで「5. ごみ処理経費」が24.9%、「3. ごみの資源化方法」が24.4%の順であった。また、「7. その他」の回答としては、「外国人への情報の伝達」といった回答があった。

表 3-20 不足していると思う情報

選択肢	回答数	回答割合
1. ごみの分別排出方法	525	30.1%
2. ごみ処理方法	397	22.8%
3. ごみの資源化方法	426	24.4%
4. 発生するごみ量	330	18.9%
5. ごみ処理経費	435	24.9%
6. ごみに関する問題点	382	21.9%
7. その他	101	5.8%
未回答	684	39.2%
合計	3,280	—
回答者数	1,745	—

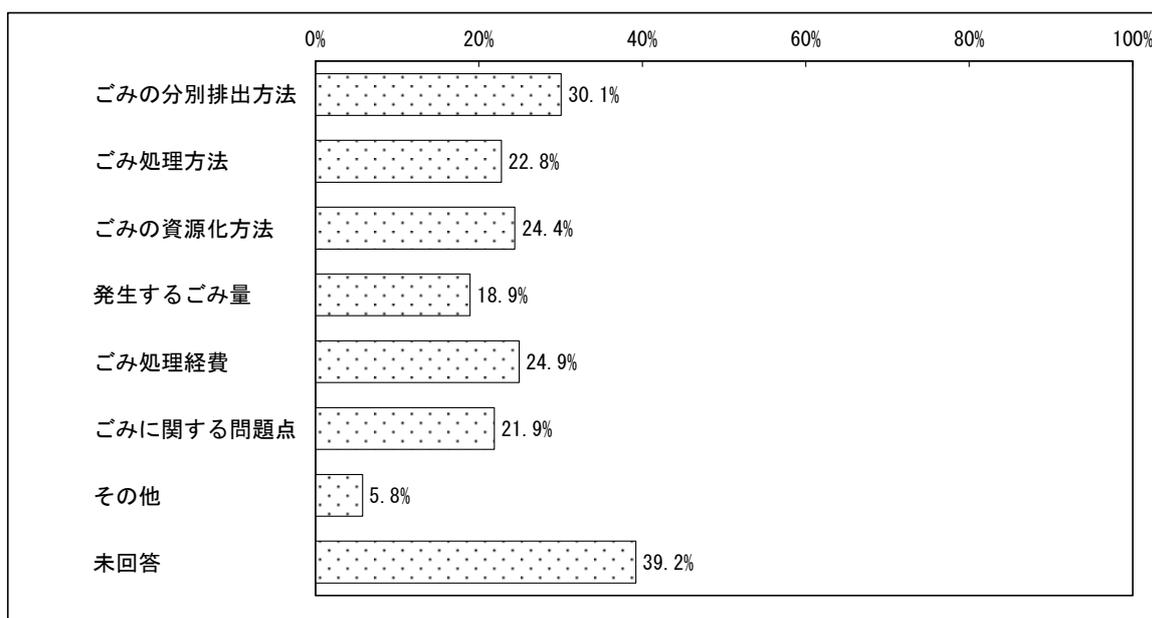


図 3-19 不足していると思う情報

(2) 望ましいと思う周知方法 (3つまで)

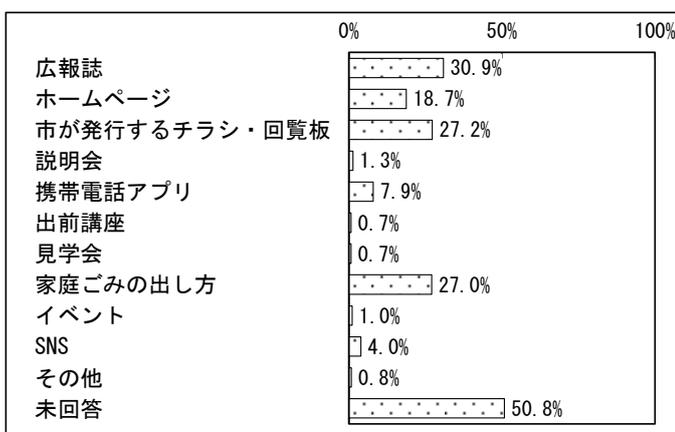
ごみに関する情報で望ましいと思う周知方法は、「1. 広報誌」「2. ホームページ」「3. 市が発行するチラシ・回覧板」「8. 家庭ごみの出し方」の順に割合が大きくなった。

「5. 携帯電話アプリ」は上記の4つの方法の次に割合が大きくなっているが「ごみに関する情報の入手先」(問8)の質問では割合が小さかったことから、アプリの存在を知らない市民が一定数いることがうかがえる。また、「4. 説明会」や「6. 出前講座」、「7. 見学会」についても、割合は小さかったが、行政と市民が対面し、ごみに関する情報をより詳しく周知するためには効果的と考えられる。

表 3-21 望ましいと思う周知方法

ごみの分別排出方法

選択肢	回答数	回答割合
1. 広報誌	539	30.9%
2. ホームページ	327	18.7%
3. 市が発行するチラシ・回覧板	475	27.2%
4. 説明会	23	1.3%
5. 携帯電話アプリ	138	7.9%
6. 出前講座	13	0.7%
7. 見学会	12	0.7%
8. 家庭ごみの出し方	472	27.0%
9. イベント	18	1.0%
10. SNS	69	4.0%
11. その他	14	0.8%
未回答	886	50.8%
合計	2,986	—
回答者数	1,745	—



ごみ処理方法

選択肢	回答数	回答割合
1. 広報誌	401	23.0%
2. ホームページ	270	15.5%
3. 市が発行するチラシ・回覧板	372	21.3%
4. 説明会	22	1.3%
5. 携帯電話アプリ	106	6.1%
6. 出前講座	10	0.6%
7. 見学会	29	1.7%
8. 家庭ごみの出し方	300	17.2%
9. イベント	18	1.0%
10. SNS	63	3.6%
11. その他	8	0.5%
未回答	1,082	62.0%
合計	2,681	—
回答者数	1,745	—

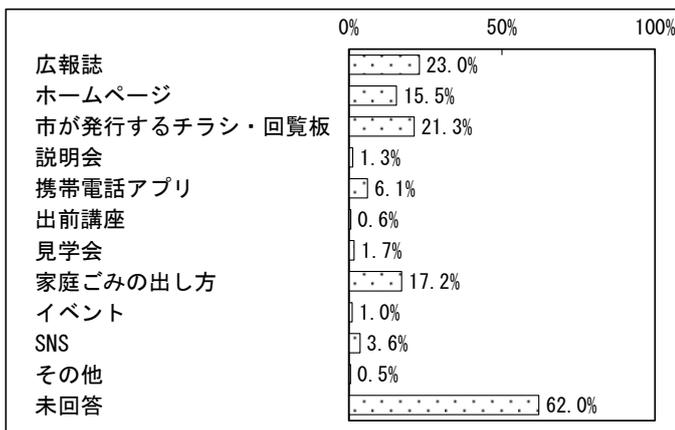
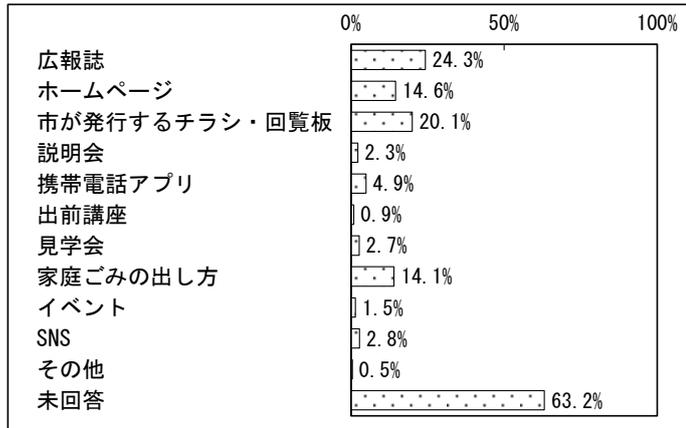


図 3-20 望ましいと思う周知方法

表 3-22 望ましいと思う周知方法

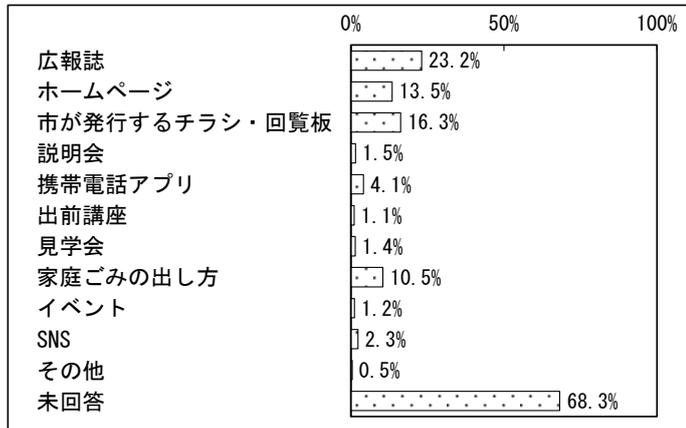
ごみの資源化方法

選択肢	回答数	回答割合
1. 広報誌	424	24.3%
2. ホームページ	254	14.6%
3. 市が発行するチラシ・回覧板	350	20.1%
4. 説明会	40	2.3%
5. 携帯電話アプリ	86	4.9%
6. 出前講座	16	0.9%
7. 見学会	47	2.7%
8. 家庭ごみの出し方	246	14.1%
9. イベント	26	1.5%
10. SNS	49	2.8%
11. その他	8	0.5%
未回答	1,102	63.2%
合計	2,648	—
回答者数	1,745	—



発生するごみ量

選択肢	回答数	回答割合
1. 広報誌	404	23.2%
2. ホームページ	236	13.5%
3. 市が発行するチラシ・回覧板	284	16.3%
4. 説明会	27	1.5%
5. 携帯電話アプリ	72	4.1%
6. 出前講座	19	1.1%
7. 見学会	25	1.4%
8. 家庭ごみの出し方	183	10.5%
9. イベント	21	1.2%
10. SNS	41	2.3%
11. その他	8	0.5%
未回答	1,191	68.3%
合計	2,511	—
回答者数	1,745	—



ごみ処理経費

選択肢	回答数	回答割合
1. 広報誌	467	26.8%
2. ホームページ	280	16.0%
3. 市が発行するチラシ・回覧板	336	19.3%
4. 説明会	44	2.5%
5. 携帯電話アプリ	75	4.3%
6. 出前講座	20	1.1%
7. 見学会	19	1.1%
8. 家庭ごみの出し方	185	10.6%
9. イベント	26	1.5%
10. SNS	48	2.8%
11. その他	10	0.6%
未回答	1,118	64.1%
合計	2,628	—
回答者数	1,745	—

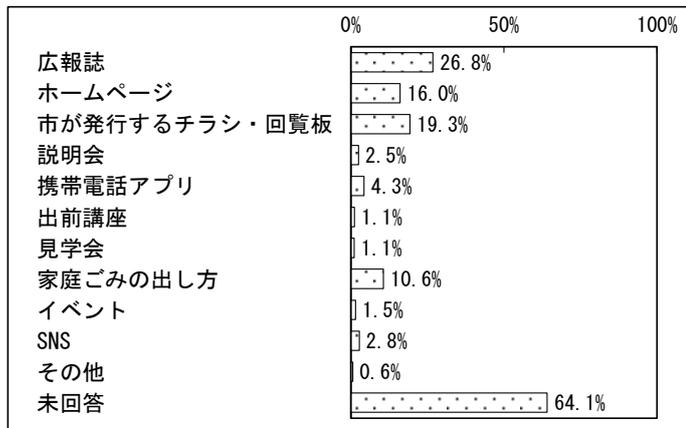
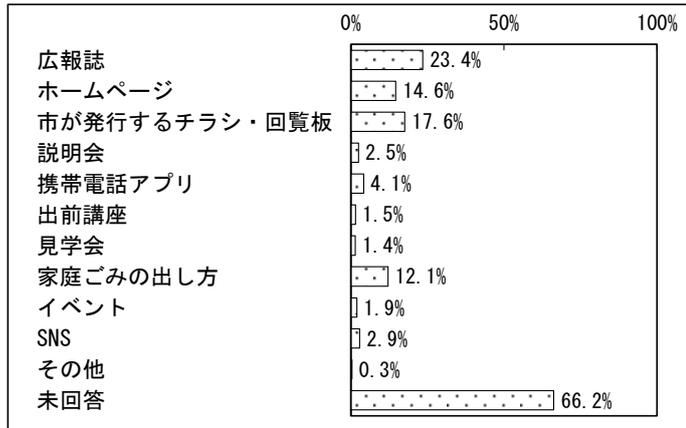


図 3-21 望ましいと思う周知方法

表 3-23 望ましいと思う周知方法

ごみに関する問題点

選択肢	回答数	回答割合
1. 広報誌	409	23.4%
2. ホームページ	255	14.6%
3. 市が発行するチラシ・回覧板	307	17.6%
4. 説明会	43	2.5%
5. 携帯電話アプリ	72	4.1%
6. 出前講座	26	1.5%
7. 見学会	25	1.4%
8. 家庭ごみの出し方	211	12.1%
9. イベント	33	1.9%
10. SNS	50	2.9%
11. その他	6	0.3%
未回答	1,156	66.2%
合計	2,593	—
回答者数	1,745	—



その他

選択肢	回答数	回答割合
1. 広報誌	20	1.1%
2. ホームページ	21	1.2%
3. 市が発行するチラシ・回覧板	21	1.2%
4. 説明会	5	0.3%
5. 携帯電話アプリ	3	0.2%
6. 出前講座	3	0.2%
7. 見学会	1	0.1%
8. 家庭ごみの出し方	16	0.9%
9. イベント	3	0.2%
10. SNS	5	0.3%
11. その他	4	0.2%
未回答	1,703	97.6%
合計	1,805	—
回答者数	1,745	—

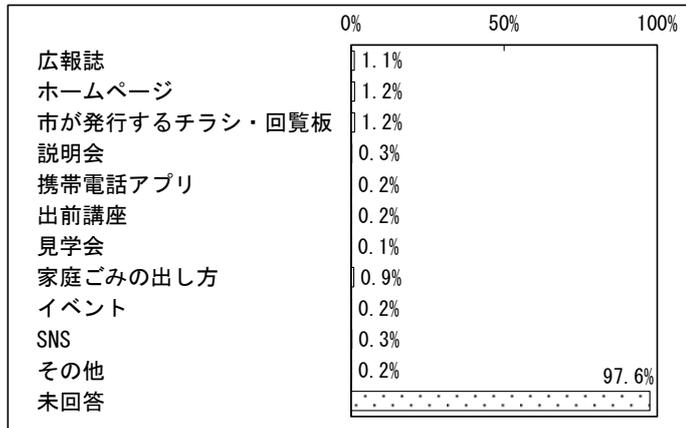


図 3-22 望ましいと思う周知方法

#### <IV 家庭から出る可燃ごみの有料化について>

「家庭から出る可燃ごみの有料化」は各家庭の可燃ごみ排出量に応じてごみ処理手数料を負担していただくという家庭の可燃ごみ減量の努力が負担額に反映される制度です。「家庭から出る可燃ごみの有料化」について、あなたの考えをお答えください。

##### (1) 家庭から出る可燃ごみの有料化への意向

家庭から出る可燃ごみの有料化への意向についてみると、「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」の割合が42.2%、「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというと実施すべきではない」の割合が44.3%であり、ほぼ同程度の割合となった。

表 3-24 家庭から出る可燃ごみの有料化への意向

選択肢	回答数	構成比
1. 実施すべき	308	17.7%
2. どちらかというと実施すべき	427	24.5%
3. 実施すべきではない	415	23.8%
4. どちらかというと実施すべきではない	358	20.5%
5. わからない	178	10.2%
未回答	59	3.4%
合計	1,745	100.0%

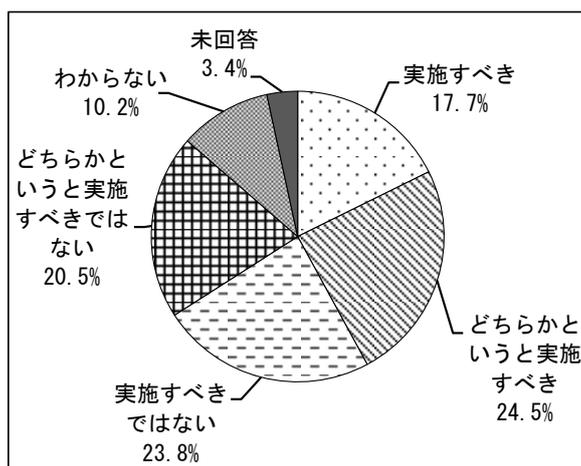


図 3-23 家庭から出る可燃ごみの有料化への意向

#### 【クロス集計】

家庭から出る可燃ごみの有料化への意向について、年代別に傾向をみると、「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」の割合が最も高いのは40代、最も低いのは20代となった。「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというと実施すべきではない」の割合が最も高いのは20代、最も低いのは70代となった。

表 3-25 家庭から出る可燃ごみの有料化への意向一年代別

選択肢	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		未回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比										
1. 実施すべき	4	13.3%	14	10.1%	31	16.1%	57	17.9%	60	19.9%	39	15.4%	102	20.2%	1	12.5%
2. どちらかという と実施すべき	9	30.0%	28	20.3%	44	22.9%	98	30.8%	67	22.3%	64	25.2%	113	22.4%	4	50.0%
3. 実施すべきではない	7	23.3%	41	29.7%	53	27.6%	65	20.4%	83	27.6%	66	26.0%	100	19.8%	0	0.0%
4. どちらかという と実施すべきではない	4	13.3%	31	22.5%	36	18.8%	61	19.2%	71	23.6%	55	21.7%	99	19.6%	1	12.5%
5. わからない	4	13.3%	23	16.7%	23	12.0%	33	10.4%	13	4.3%	24	9.4%	57	11.3%	1	12.5%
未回答	2	6.7%	1	0.7%	5	2.6%	4	1.3%	7	2.3%	6	2.4%	33	6.5%	1	12.5%
合計	30	100.0%	138	100.0%	192	100.0%	318	100.0%	301	100.0%	254	100.0%	504	100.0%	8	100.0%

問 10 で「1. 実施すべき」「2. どちらかというと実施すべき」と回答された主な理由をお答えください。

(1) 家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべき理由

問 10 で「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」と回答された方の、主な回答理由は、「2. 可燃ごみの減量・資源化が進むことを期待するから」が最も多く 42.7%、次いで「1. 家庭での可燃ごみ減量の努力が負担額に反映し、公平化が図られるから」が 35.6%であった。

表 3-26 家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべき理由

選択肢	回答数	構成比
1. 家庭での可燃ごみ減量の努力が負担額に反映し、公平化が図られるから	262	35.6%
2. 可燃ごみの減量・資源化が進むことを期待するから	314	42.7%
3. 新たなサービスの充実を期待するから	35	4.8%
4. 市の財政負担を軽減するから	63	8.6%
5. その他	11	1.5%
未回答	50	6.8%
合計	735	100.0%

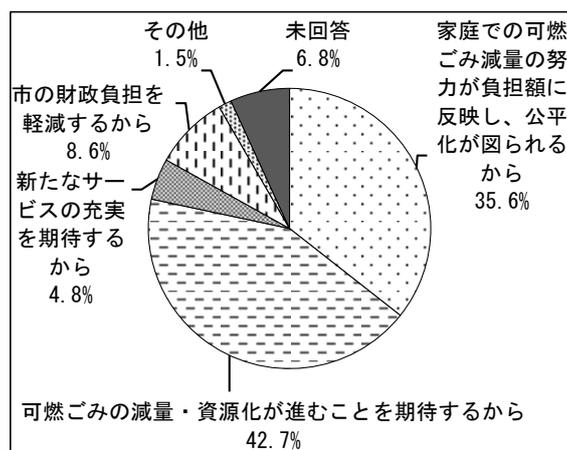


図 3-24 家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべき理由

問 10 で「3. 実施すべきではない」「4. どちらかというとな実施すべきではない」と回答された主な理由をお答えください。

(1) 家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべきではない理由

問 10 で「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというとな実施すべきではない」と回答された方の主な回答理由は、「1. 家計の経済的負担が増えるから」が最も多く 29.0%、次いで「2. 不法投棄が増えそうだから」が 28.1%、「3. ごみ処理費用は、税金の中から支出すべきだから」が 18.9%であった。

表 3-27 家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべきではない理由

選択肢	回答数	構成比
1. 家計の経済的負担が増えるから	224	29.0%
2. 不法投棄が増えそうだから	217	28.1%
3. ごみ処理費用は、税金の中から支出すべきだから	146	18.9%
4. 可燃ごみの減量・資源化につながらないから	36	4.7%
5. その他	40	5.2%
未回答	109	14.1%
合計	772	100.0%

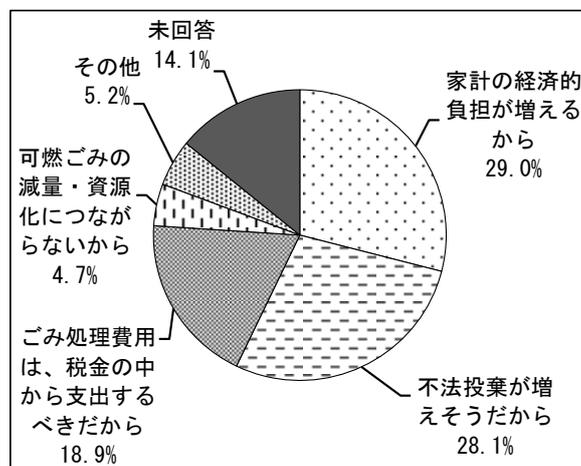


図 3-25 家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべきではない理由

<Ⅴ プラスチック製容器包装の分別収集について>

「プラスチック製容器包装の分別収集」について、あなたの考え方として該当するものをお答えください。

(1) プラスチック製容器包装の分別収集への意向

プラスチック製容器包装の分別収集への意向についてみると、「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」の割合が48.9%、「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというと実施すべきではない」の割合が33.7%であった。「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」の割合の方が大きくなった。

表 3-28 プラスチック製容器包装の分別収集への意向

選択肢	回答数	構成比
1. 実施すべき	420	24.1%
2. どちらかというと実施すべき	432	24.8%
3. 実施すべきではない	253	14.5%
4. どちらかというと実施すべきではない	335	19.2%
5. わからない	193	11.1%
未回答	112	6.4%
合計	1,745	100.0%

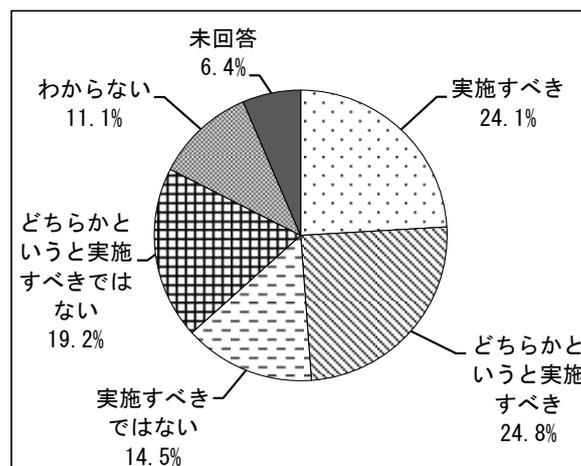


図 3-26 プラスチック製容器包装の分別収集への意向

【クロス集計】

プラスチック製容器包装の分別収集への意向について、地域別の傾向をみると、すべての地域で「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」のどちらかの割合が最も大きくなっている。また、以降は「4. どちらかというと実施すべきではない」、「3. 実施すべきではない」、「5. わからない」の順となっており、地域による明確な差はみられなかった。

表 3-29 プラスチック製容器包装の分別収集への意向―地域別

選択肢	南部		西部		中部		東部		北部		未回答	
	回答数	構成比										
1. 実施すべき	80	26.3%	95	22.4%	63	27.9%	102	21.6%	76	25.4%	4	21.1%
2. どちらかという と実施すべき	69	22.7%	104	24.5%	56	24.8%	128	27.1%	71	23.7%	4	21.1%
3. 実施すべきではない	45	14.8%	62	14.6%	33	14.6%	71	15.0%	39	13.0%	3	15.8%
4. どちらかという と実施すべきではない	64	21.1%	88	20.8%	42	18.6%	88	18.6%	49	16.4%	4	21.1%
5. わからない	32	10.5%	46	10.8%	22	9.7%	53	11.2%	37	12.4%	3	15.8%
未回答	14	4.6%	29	6.8%	10	4.4%	31	6.6%	27	9.0%	1	5.3%
合計	304	100.0%	424	100.0%	226	100.0%	473	100.0%	299	100.0%	19	100.0%

問 13 で「1. 実施すべき」「2. どちらかというと実施すべき」と回答された主な理由をお答えください。

(1) プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由

問 13 で「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」と回答された方の、プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由としての回答は、「1. 二酸化炭素の排出量が削減されるから」が最も多く 45.0%、次いで「4. 資源化可能なものは全て資源化すべきだから」が 30.7%、「5. ごみ減量につながるから」が 14.8%であった。

表 3-30 プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由

選択肢	回答数	構成比
1. 二酸化炭素の排出量が削減されるから	341	45.0%
2. 天然資源の使用が抑制されるから	40	5.3%
3. 多くの自治体を実施しているから	28	3.7%
4. 資源化可能なものは全て資源化すべきだから	233	30.7%
5. ごみ減量につながるから	112	14.8%
6. その他	4	0.5%
未回答	0	0.0%
合計	758	100.0%

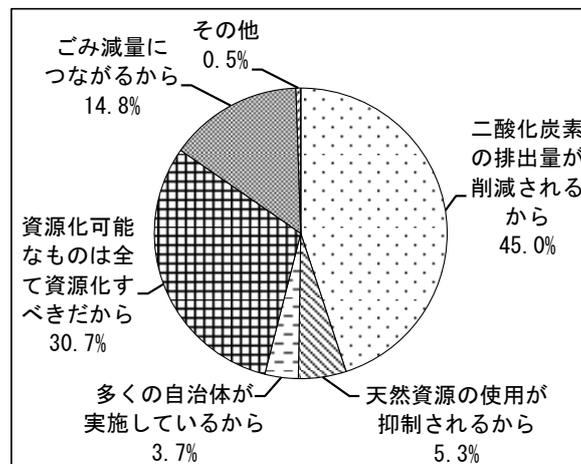


図 3-27 プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由

問13で「3. 実施すべきではない」「4. どちらかというを実施すべきではない」と回答された主な理由をお答えください。

(1) プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由

問13で「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというを実施すべきではない」と回答された方の、プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由の回答は、「6. 焼却してエネルギー回収・利用した方が良いから」が最も多く21.4%、次いで「4. 家庭内で分別区分が多すぎて対応できないから」が18.4%、「2. 分別が何かわかりにくいから」が12.2%であった。

表 3-31 プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由

選択肢	回答数	構成比
1. 排出ルールが面倒そうだから	57	9.7%
2. 分別が何かわかりにくいから	72	12.2%
3. 家庭内に保管するスペースがないから	39	6.6%
4. 家庭内で分別区分が多すぎて対応できないから	108	18.4%
5. プラスチックに資源化される率が低いから	53	9.0%
6. 焼却してエネルギー回収・利用した方が良いから	126	21.4%
7. 収集運搬費等のコストがかかるから	33	5.6%
8. その他	22	3.7%
未回答	78	13.3%
合計	588	100.0%

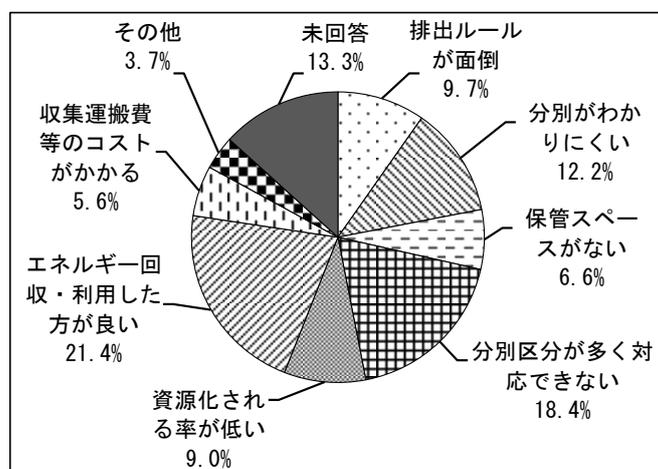


図 3-28 プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由

## <VI 食品ロスの削減について>

「食品ロス」という言葉とその意味をご存知でしたか。

### (1) 食品ロスの認知状況

食品ロスに関して、「1. 言葉も意味も知っていた」の割合が84.9%、「2. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった」の割合が7.4%、「3. (言葉も意味も) 知らなかった」の割合が2.5%と、食品ロスに対する認知度は高いことがうかがえる。

表 3-32 食品ロスの認知状況

選択肢	回答数	構成比
1. 言葉も意味も知っていた	1,481	84.9%
2. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった	129	7.4%
3. 知らなかった	43	2.5%
未回答	92	5.3%
合計	1,745	100.0%

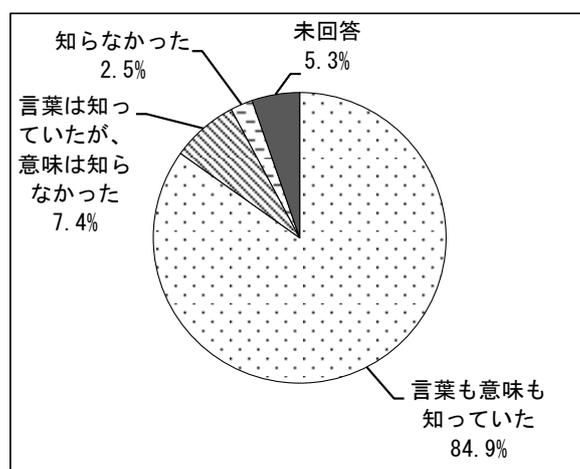


図 3-29 食品ロスの認知状況

「食品ロス」の削減のために家庭で取り組んでいることはありますか。

### (1) 食品ロス削減のための家庭での取組（複数回答）

食品ロスを削減するための家庭での取組は、「7. 残さずに食べるようにしている」が最も多く64.2%、次いで「1. 買い物前には、冷蔵庫の中身などを確認してから買い物に行く」が63.4%、「2. 調理するときには、食べきれぬ量だけ作る」が51.6%、「6. 賞味期限や消費期限をこまめに確認している」が50.6%であった。

一方、「8. 余った食品や食べきれない食品はフードバンク等に提供している」は1.3%に留まっており、各家庭での食品ロス削減の取組としては浸透していないことがうかがえる。

「9. その他」の回答としては、「賞味期限が近づいた食品で作れるメニューを考える」、「賞味期限が過ぎても気にせず食べる」、「翌日の弁当や食卓に出す」、「少し別の物に調理して食べる」、「食べきれない食品は庭の草花の肥料にしている」といった回答があった。

表 3-33 食品ロス削減のための家庭での取組

選択肢	回答数	回答割合
1. 買い物前には、冷蔵庫の中身などを確認してから買い物に行く	1,106	63.4%
2. 調理するときには、食べきれぬ量だけ作る	901	51.6%
3. 皮や脂など、必要以上に取り除かないように注意し、食材を無駄なく使うようにしている	326	18.7%
4. ばら売りや、量り売り、少量パック等を必要に応じて利用している	559	32.0%
5. 冷蔵庫の機能（チルド室やパーシャル室等）をうまく使い分け、保存方法を工夫している	750	43.0%
6. 賞味期限や消費期限をこまめに確認している	883	50.6%
7. 残さずに食べるようにしている	1,120	64.2%
8. 余った食品や食べきれない食品はフードバンク等に提供している	23	1.3%
9. その他	55	3.2%
未回答	89	5.1%
合計	5,812	—
回答者数	1,745	—

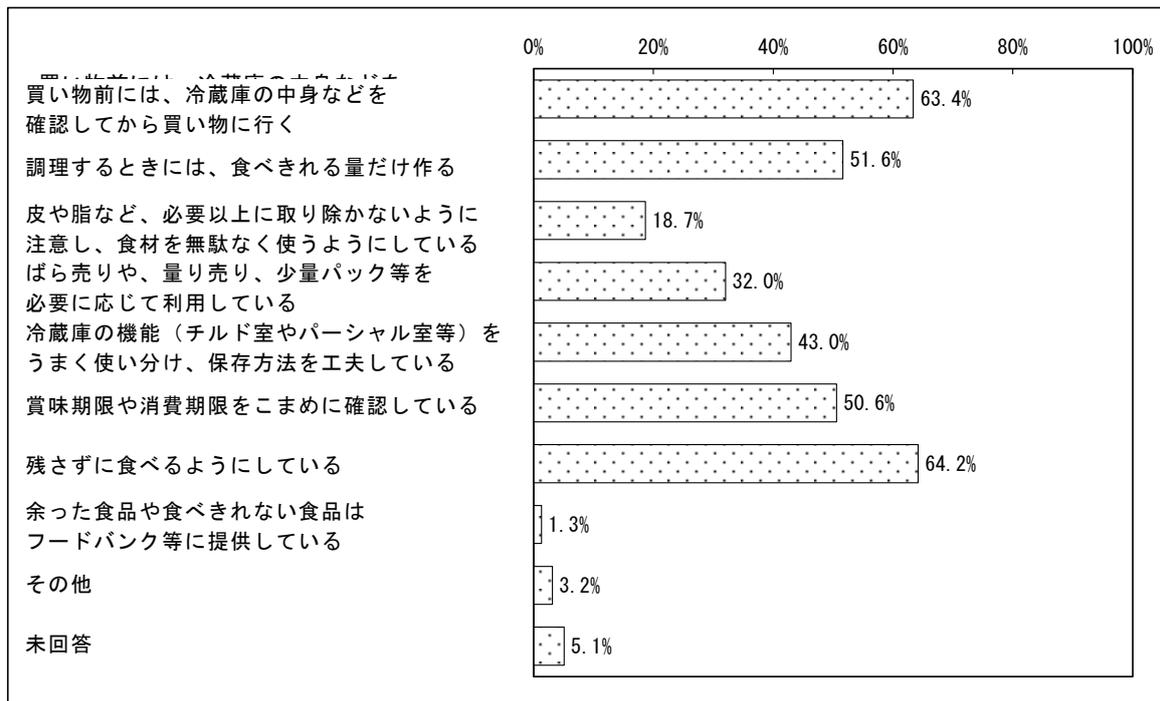


図 3-30 食品ロス削減のための家庭での取組

「食品ロス」の削減のために外食時に取り組んでいることはありますか。

(1) 食品ロス削減のための外食時での取組（複数回答）

食品ロスを削減するための外食時での取組は、「1. 小盛のメニューなどを活用し、食べきれる量を頼んでいる」が最も多く 69.7%、次いで「3. 持ち帰りができる場合には、積極的に利用している」が 33.1%、「2. 宴会時等の最初は、まず料理を食べるなど、食べ残しを減らすよう意識している」が 13.9%であった。「4. その他」としては、「全部食べきる」や「外食しない」といった回答があった。

表 3-34 食品ロス削減のための外食時での取組

選択肢	回答数	回答割合
1. 小盛のメニューなどを活用し、食べきれる量を頼んでいる	1,216	69.7%
2. 宴会時等の最初は、まず料理を食べるなど、食べ残しを減らすよう意識している（3010運動）	243	13.9%
3. 持ち帰りができる場合には、積極的に利用している	577	33.1%
4. その他	127	7.3%
未回答	170	9.7%
合計	2,333	—
回答者数	1,745	—

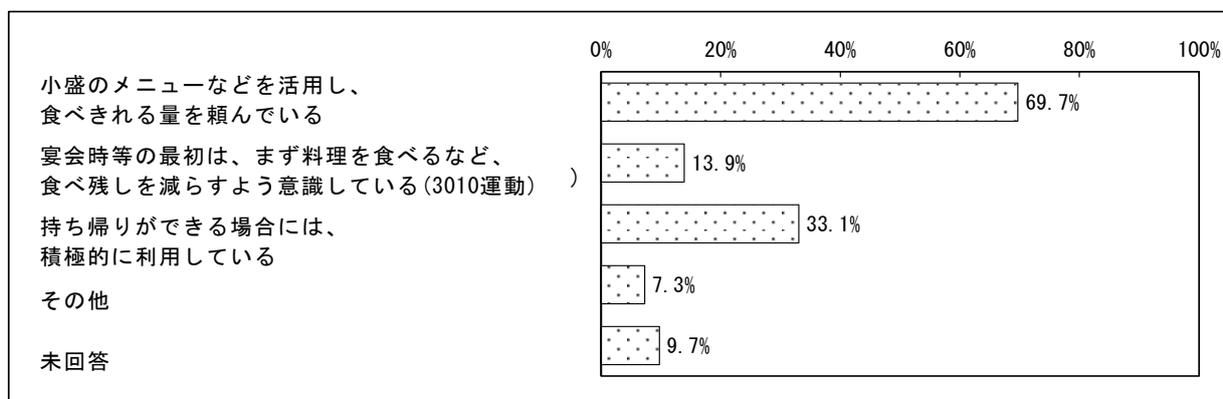


図 3-31 食品ロス削減のための外食時での取組

<Ⅶ ごみ問題への関心について>

市が現在行っている取組の中で、知っているものを挙げてください。

(1) 市が実施している取組の認知状況（複数回答）

市が実施しているごみに関する取組の認知状況について、「11. クリーン船橋 530 の日」が最も多く 43.1%、次いで「5. マイバッグ運動」が 38.2%、「12. 船橋をきれいにする日」が 29.7%、「7. 清掃工場見学」が 29.5%であった。また、「13. 全て知らない」は、18.5%であった。

表 3-35 市が実施している取組の認知状況

選択肢	回答数	回答割合
1. 夏休み親子見学会	109	6.2%
2. ふなR連携事業者認定制度	9	0.5%
3. ふれあい収集	46	2.6%
4. 3010運動	54	3.1%
5. マイバッグ運動	667	38.2%
6. フードドライブ	38	2.2%
7. 清掃工場見学	515	29.5%
8. 小型家電のボックスによる回収	415	23.8%
9. クリーン船橋530推進員	205	11.7%
10. 生ごみ処理容器購入費助成制度	220	12.6%
11. クリーン船橋530の日	752	43.1%
12. 船橋をきれいにする日	518	29.7%
13. 全て知らない	322	18.5%
未回答	147	8.4%
合計	4,017	—
回答者数	1,745	—

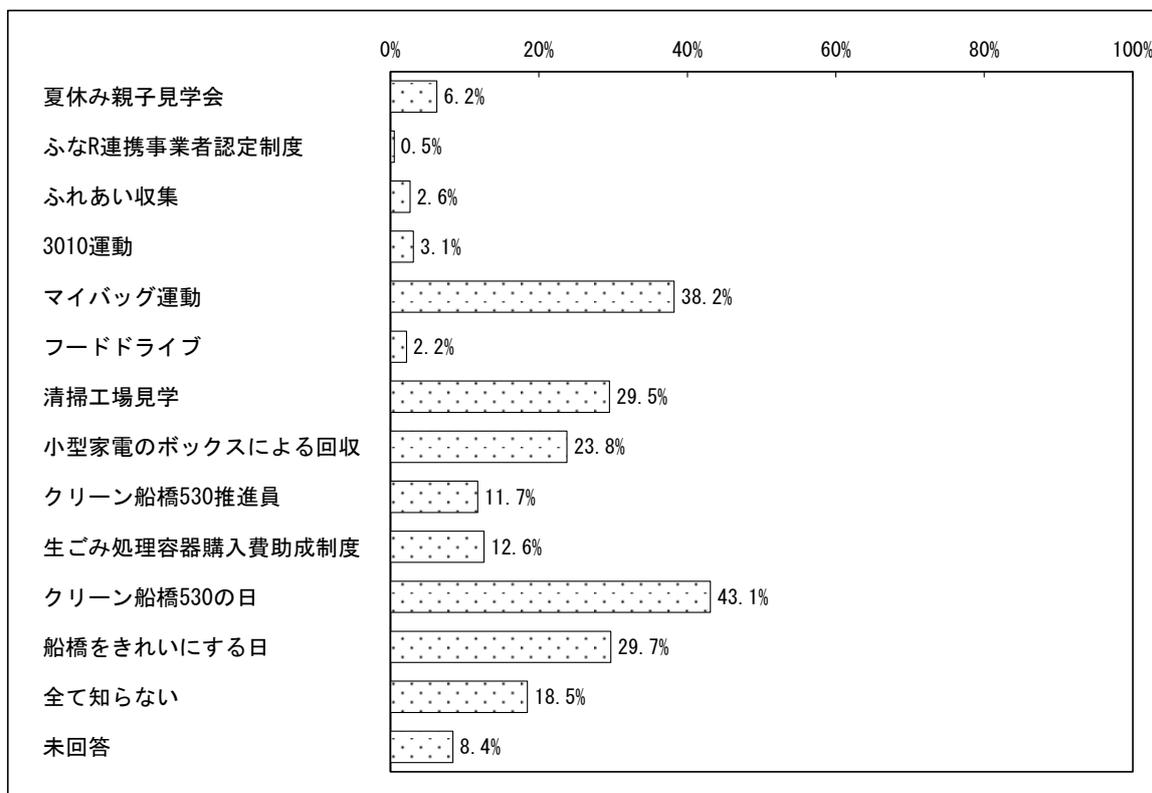


図 3-32 市が実施している取組の認知状況

【クロス集計】

市が実施しているごみに関する各取組の認知状況について、年代別に傾向をみると、「5. マイバッグ運動」はどの年代においても20%以上であった。「11. クリーン船橋530の日」はどの年代においても一定の割合を占めていたが、「20代」では18.8%とやや小さくなった。「7. 清掃工場見学」はどの年代においても一定の割合を占めていたが、「20代」「30代」ではやや小さくなった。

また、「13. 全て知らない」は若い年代で多く、「10代」で26.7%、「20代」で46.4%、「30代」で36.5%であった。

表 3-36 市が実施している取組の認知状況—年代別

選択肢	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合										
1. 夏休み親子見学会	0	0.0%	2	1.4%	6	3.1%	10	3.1%	16	5.3%	32	12.6%	42	8.3%
2. ふなR連携事業者認定制度	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	4	1.3%	2	0.7%	1	0.4%	1	0.2%
3. ふれあい収集	0	0.0%	1	0.7%	5	2.6%	4	1.3%	12	4.0%	13	5.1%	11	2.2%
4. 3010運動	3	10.0%	2	1.4%	3	1.6%	11	3.5%	6	2.0%	9	3.5%	20	4.0%
5. マイバッグ運動	10	33.3%	36	26.1%	51	26.6%	77	24.2%	96	31.9%	116	45.7%	278	55.2%
6. フードドライブ	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	6	1.9%	8	2.7%	10	3.9%	12	2.4%
7. 清掃工場見学	8	26.7%	21	15.2%	29	15.1%	96	30.2%	84	27.9%	89	35.0%	186	36.9%
8. 小型家電のボックスによる回収	4	13.3%	14	10.1%	34	17.7%	70	22.0%	83	27.6%	80	31.5%	128	25.4%
9. クリーン船橋530推進員	2	6.7%	6	4.3%	14	7.3%	38	11.9%	42	14.0%	37	14.6%	66	13.1%
10. 生ごみ処理容器購入費助成制度	2	6.7%	5	3.6%	12	6.3%	33	10.4%	50	16.6%	38	15.0%	78	15.5%
11. クリーン船橋530の日	9	30.0%	26	18.8%	49	25.5%	145	45.6%	160	53.2%	133	52.4%	228	45.2%
12. 船橋をきれいにする日	4	13.3%	11	8.0%	29	15.1%	82	25.8%	94	31.2%	87	34.3%	209	41.5%
13. 全て知らない	8	26.7%	64	46.4%	70	36.5%	75	23.6%	46	15.3%	27	10.6%	31	6.2%
未回答	2	6.7%	10	7.2%	21	10.9%	16	5.0%	12	4.0%	15	5.9%	69	13.7%
合計	52	—	198	—	326	—	667	—	711	—	687	—	1,359	—
回答者数	30	—	138	—	192	—	318	—	301	—	254	—	504	—

ごみに関して、お困りのことをお答えください。

(1) ごみに関する困りごと（複数回答）

ごみに関する困りごとは、「3. カラス・猫などによりごみが荒らされる」が最も多く 23.0%、次いで「4. ごみ出しの時間・分別を守らない人がいる」が 19.8%、「2. 分別の仕方がわかりづらい」が 12.6%であった。また、「8. 特になし」と回答された方は 29.1%であった。「9. その他」の回答としては、「不法投棄」や「ごみステーションが遠い」といった回答があった。

表 3-37 ごみに関する困りごと

選択肢	回答数	回答割合
1. ごみ出しの時間帯が合わない	107	6.1%
2. 分別の仕方がわかりづらい	219	12.6%
3. カラス・猫などによりごみが荒らされる	401	23.0%
4. ごみ出しの時間・分別を守らない人がいる	346	19.8%
5. 資源を持ち去る人がいる	181	10.4%
6. ペットボトル等の収集用袋の管理の当番制	65	3.7%
7. 夜間収集による騒音	18	1.0%
8. 特になし	508	29.1%
9. その他	159	9.1%
未回答	241	13.8%
合計	2,245	—
回答者数	1,745	—

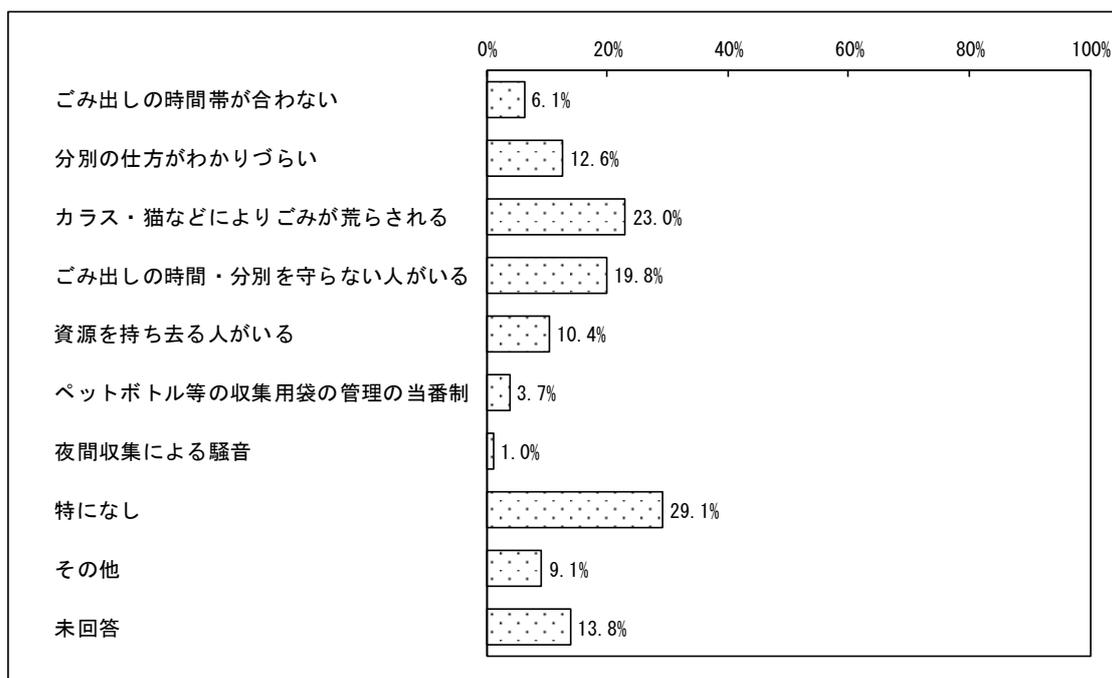


図 3-33 ごみに関する困りごと

## 【クロス集計】

ごみに関する困りごとについて、居住地域別に傾向をみると、「3. カラス・猫などによりごみが荒らされる」は「東部」「北部」で25%以上と高かった。また、「4. ごみ出しの時間・分別を守らない人がある」は、「北部」が若干少ないものの、地域による大きな差異はみられなかった。

なお、「8. 特になし」は「北部」で最も低く24.1%、「南部」で最も高く35.2%となった。

表 3-38 ごみに関する困りごと—居住地域別

選択肢	南部		西部		中部		東部		北部		未回答	
	回答数	回答割合										
1. ごみ出しの時間帯が合わない	19	6.3%	24	5.7%	15	6.6%	27	5.7%	19	6.4%	3	15.8%
2. 分別の仕方がわかりづらい	41	13.5%	59	13.9%	22	9.7%	70	14.8%	25	8.4%	2	10.5%
3. カラス・猫などによりごみが荒らされる	57	18.8%	77	18.2%	42	18.6%	119	25.2%	103	34.4%	3	15.8%
4. ごみ出しの時間・分別を守らない人がある	68	22.4%	85	20.0%	47	20.8%	91	19.2%	49	16.4%	6	31.6%
5. 資源を持ち去る人がある	28	9.2%	50	11.8%	25	11.1%	49	10.4%	27	9.0%	2	10.5%
6. ペットボトル等の収集用袋の管理の当番制	6	2.0%	14	3.3%	10	4.4%	17	3.6%	17	5.7%	1	5.3%
7. 夜間収集による騒音	9	3.0%	6	1.4%	0	0.0%	3	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
8. 特になし	107	35.2%	127	30.0%	74	32.7%	122	25.8%	72	24.1%	6	31.6%
9. その他	28	9.2%	38	9.0%	22	9.7%	43	9.1%	27	9.0%	1	5.3%
未回答	20	6.6%	63	14.9%	30	13.3%	77	16.3%	49	16.4%	2	10.5%
合計	383	—	543	—	287	—	618	—	388	—	26	—
回答者数	304	—	424	—	226	—	473	—	299	—	19	—

<Ⅷ 現在と今後の取組について>

それぞれの取組について、「現在実施している」、「今後実施予定」かを記入してください。

(1) 現在実施している取組及び今後実施予定の取り組み（複数回答）

現在実施している取組に関しては、「4. シャンプーなどの製品は、詰め替え商品を購入するよう心がけている」が最も多く 86.9%、次いで「3. 買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」が 86.7%、「1. 不要なものや無駄なものは、なるべく買わないようにしている」が 79.8%であった。また、「15. 特に何もしていない」と回答された方は 0.5%と割合は小さく、多くの市民が日常的にごみの減量化や資源化に取り組んでいることがうかがえる。

今後実施予定の取組に関しては、「3. 買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」が最も多く 90.1%、次いで「4. シャンプーなどの製品は、詰め替え商品を購入するよう心がけている」が 89.2%、「1. 不要なものや無駄なものは、なるべく買わないようにしている」が 87.5%であった。「7. エコマーク商品などの環境にやさしいものを選ぶようにしている」は、「現在実施している」が 16.1%だが、「今後実施予定」は 52.4%と大きく増加している。

表 3-39 現在実施している取組及び今後実施予定の取組

選択肢	現在		今後	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
1. 不要なものや無駄なものは、なるべく買わないようにしている	1,393	79.8%	1,527	87.5%
2. 過剰包装は断るようになっている	1,084	62.1%	1,326	76.0%
3. 買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている	1,513	86.7%	1,573	90.1%
4. シャンプーなどの製品は、詰め替え商品を購入するよう心がけている	1,517	86.9%	1,557	89.2%
5. 食べ残しをしない、食べ残しを減らすため、調理に工夫をするようになっている	1,274	73.0%	1,426	81.7%
6. 生ごみ水切りや堆肥化など、生ごみの減量化に心がけている	702	40.2%	1,111	63.7%
7. 「エコマーク」商品などの環境にやさしいものを選ぶようになっている	281	16.1%	914	52.4%
8. マイ箸、マイボトルなどを持ち歩くようになっている	606	34.7%	1,067	61.1%
9. ものが壊れた時は、なるべく修理してもう一度使うようになっている	704	40.3%	1,068	61.2%
10. フリーマーケットを活用している	164	9.4%	622	35.6%
11. リサイクルショップを活用している	421	24.1%	797	45.7%
12. ごみと資源物の分別を徹底している	879	50.4%	1,217	69.7%
13. 食品を余らせないように、毎日の献立を考えながら買い物をしている	1,103	63.2%	1,294	74.2%
14. その他	33	1.9%	41	2.3%
15. 特に何もしていない	8	0.5%	11	0.6%
未回答	110	6.3%	549	31.5%
合計	11,792	—	16,100	—
回答者数	1,745	—	1,745	—

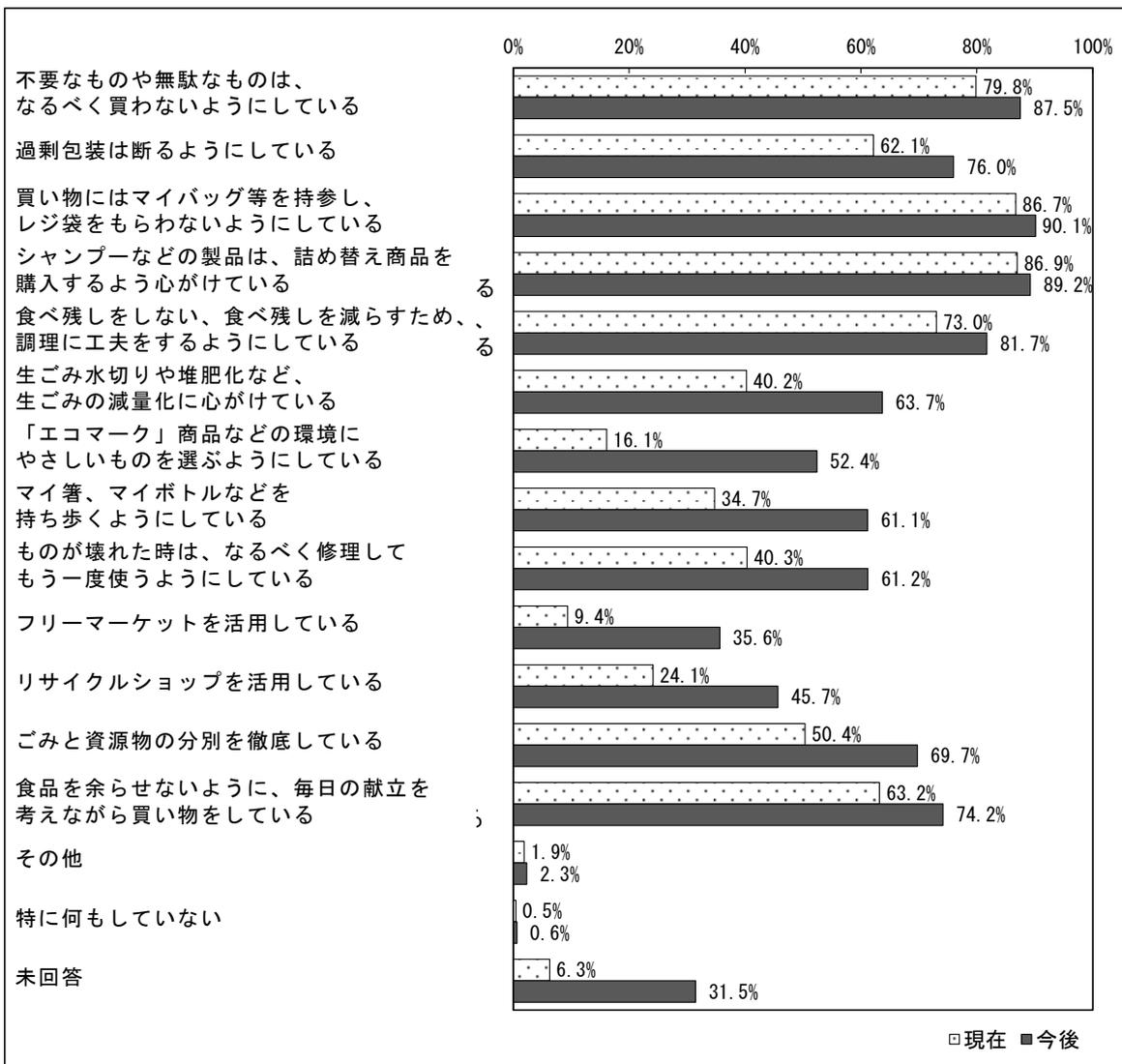


図 3-34 現在実施している取組及び今後実施予定の取組

## 5. 平成 28 年度アンケート調査との比較

### ごみに関する情報の入手先について（複数回答）

平成 28 年度調査（以下「前回調査」という。）と令和 2 年度調査を比較すると、「広報ふなばし」や「地域の回覧板」の割合が少なくなっており、「家庭ごみの出し方」「リサちゃんだより+」「船橋市ホームページ」は多くなっている。また、「資源物とごみの分別ガイド」や「ごみ分別アプリ」といった新たな媒体から情報を入手している方も多くなっている。

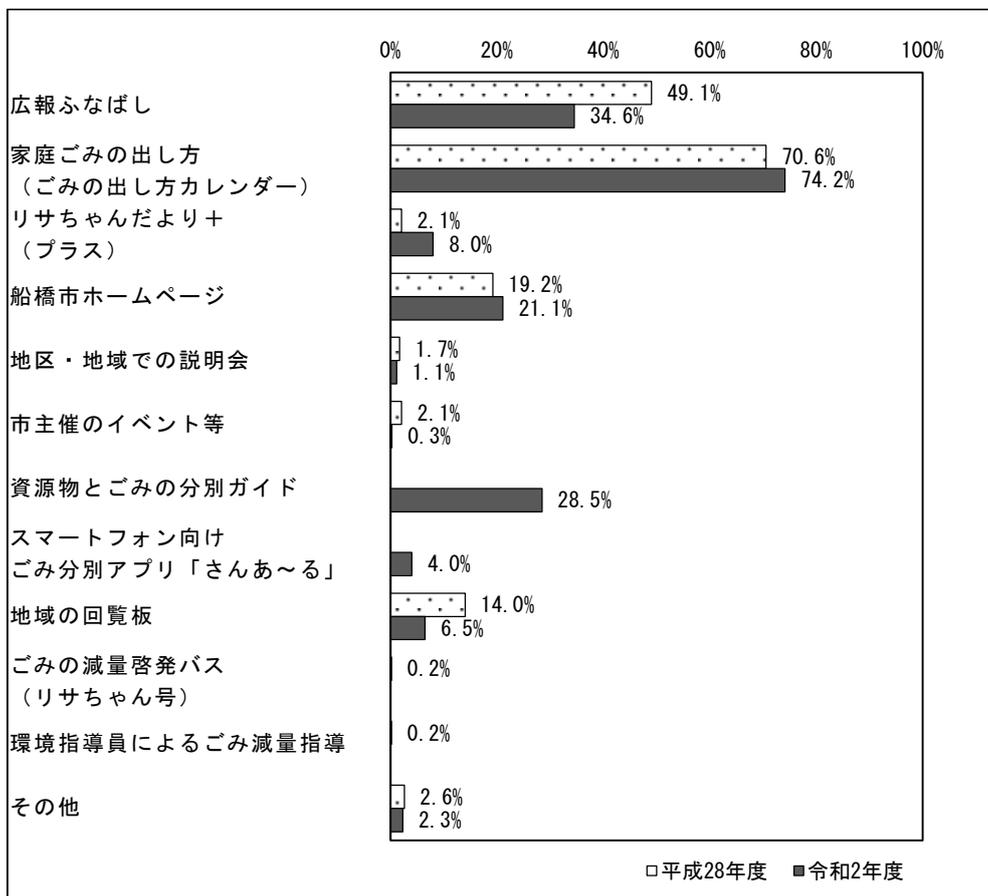


図 3-35 ごみに関する情報の入手先について前回調査と比較

不足していると思う情報について（複数回答）

前回調査と比較すると、本調査では不足していると思う情報について回答した割合は小さくなっている。前回調査、本調査ともに、「ごみの分別排出方法」が最も多くなっている。

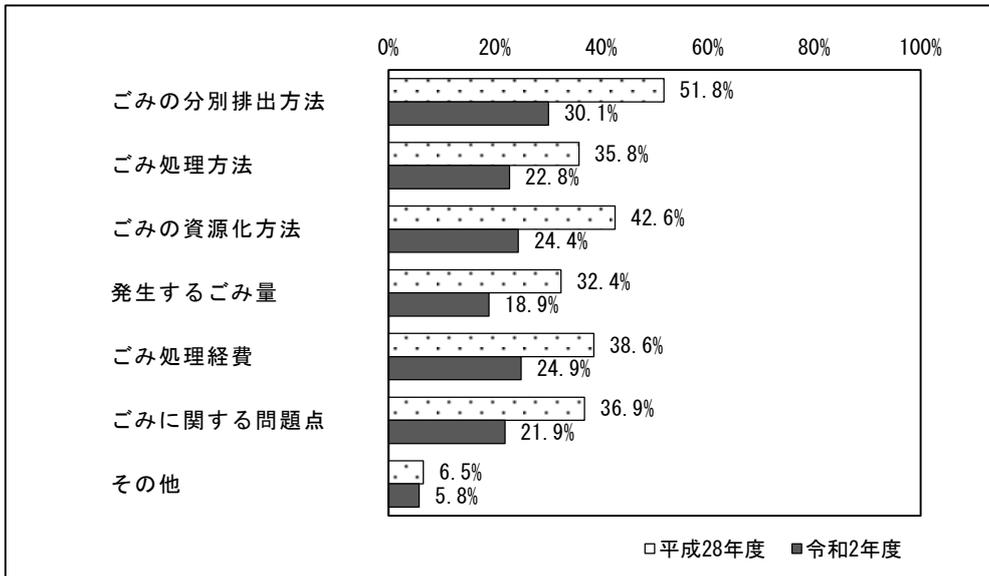


図 3-36 不足していると思う情報について前回調査と比較

家庭から出る可燃ごみの有料化について

前回調査と比較すると、本調査では、賛成が増加、反対が減少している。

賛成の理由を前回調査と比較すると、本調査では「可燃ごみの減量・資源化が進むことを期待するから」の割合が増加しており、最も多くなっている。反対の理由は、前回調査も本調査もほぼ同じ結果となっている。

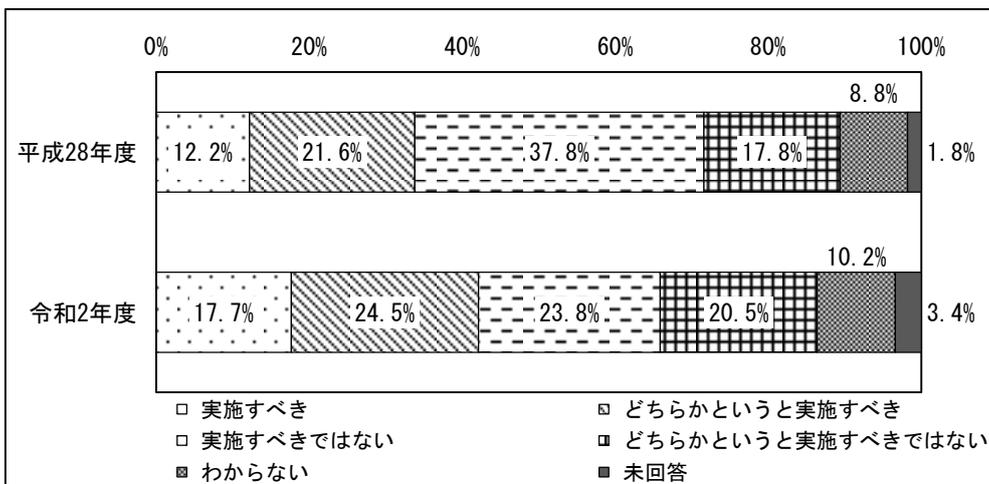


図 3-37 家庭から出る可燃ごみの有料化への意向について前回調査と比較

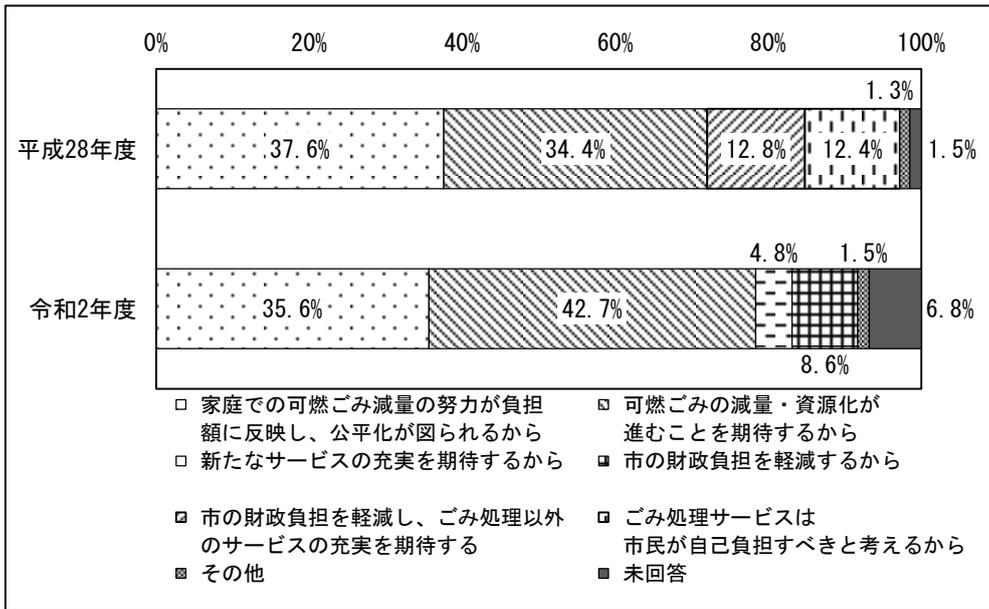


図 3-38 家庭から出る可燃ごみの有料化に賛成の理由について前回調査と比較

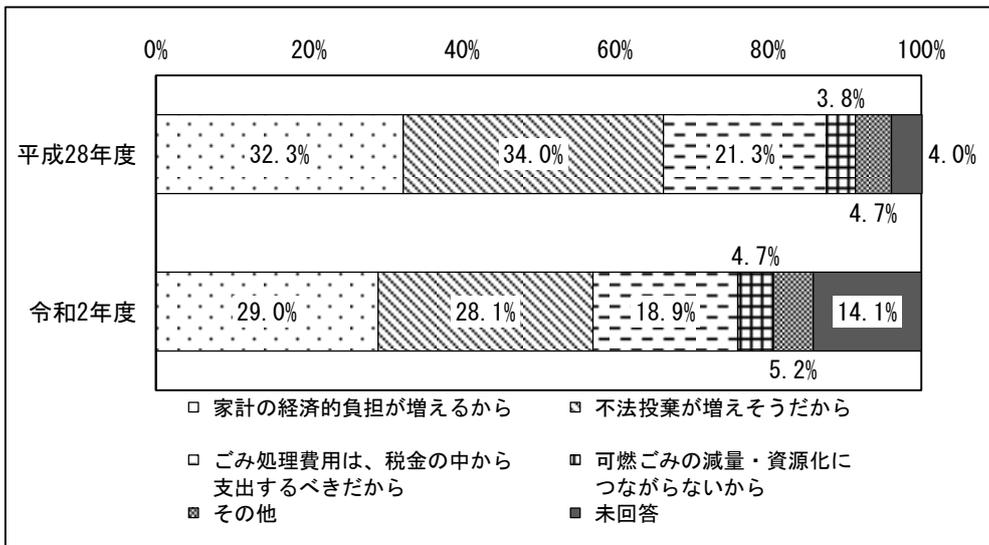


図 3-39 家庭から出る可燃ごみの有料化に反対の理由について前回調査と比較

### プラスチック製容器包装の分別収集について

前回調査と比較すると、本調査では、賛成が増加、反対が減少している。

賛成の理由を前回調査と比較すると、本調査では「二酸化炭素の排出量が削減されるから」の割合が増加し、最も多くなっている。また、反対の理由を前回調査と比較すると、本調査では「エネルギー回収・利用した方が良い」の割合が増加し、最も多くなっている。

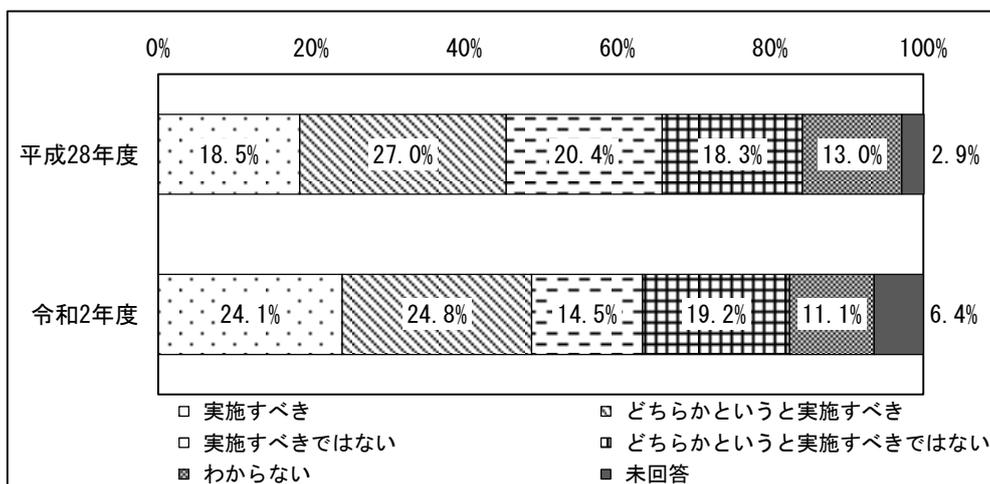


図 3-40 プラスチック製容器包装の分別収集への意向について前回調査と比較

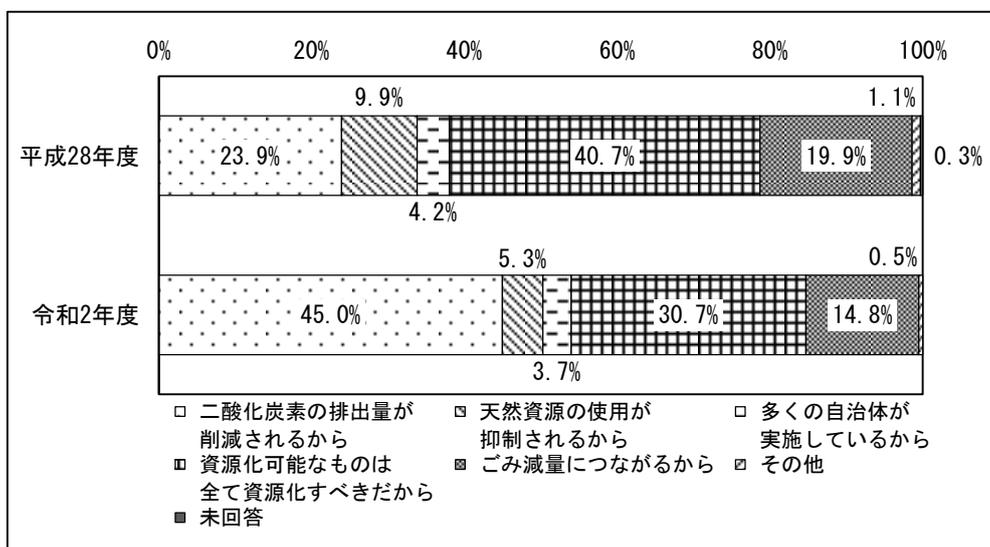


図 3-41 プラスチック製容器包装の分別収集に賛成の理由について前回調査と比較

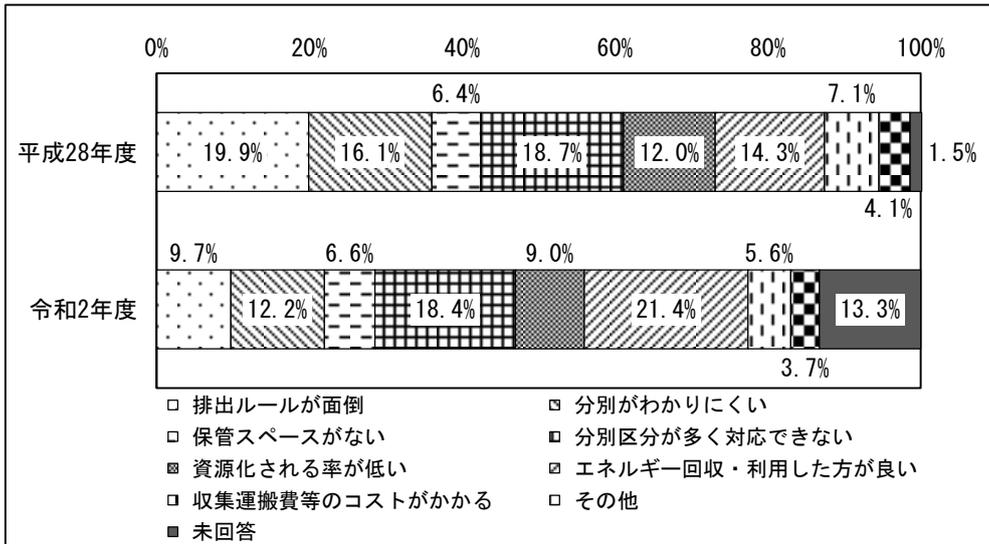


図 3-42 プラスチック製容器包装の分別収集に反対の理由について前回調査と比較

ごみに関する困りごとについて（複数回答）

前回調査と比較すると、本調査ではごみに関する困りごとについて回答した割合は小さくなっている。ごみに関する困りごとが「特になし」は同程度となっている。

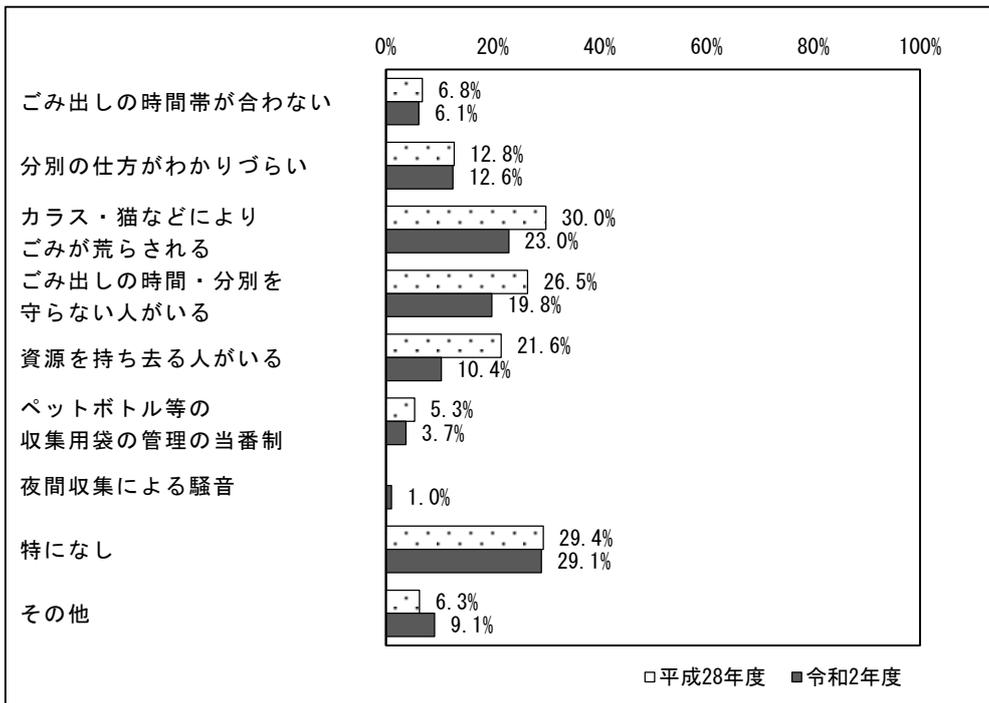


図 3-43 ごみに関する困りごとについて前回調査と比較

現在と今後の取組について（複数回答）

前回調査と本調査を比較すると、「買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」取組を実施している割合は増加しており、今後実施予定の割合も増加している。「特に何もしていない」の割合は減少し、1%以下となっている。

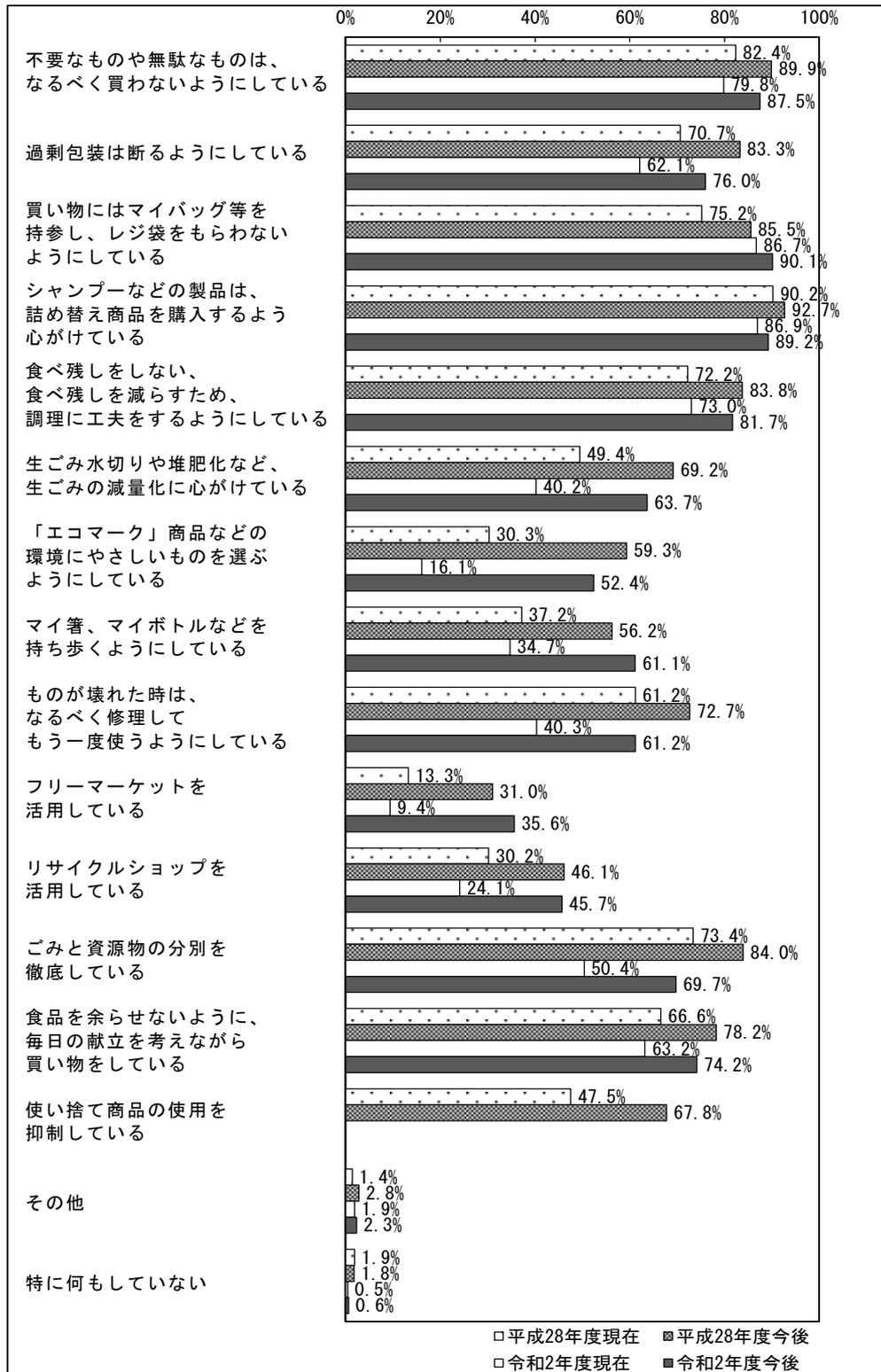


図 3-44 現在と今後の取組について前回調査と比較

## 6. 市民アンケート調査結果からの考察

市民アンケート調査結果からの考察を以下に整理する。

### アンケートの回答状況について

本調査は船橋市在住の満18歳以上の市民計3,000人を無作為抽出し、アンケート用紙を郵送した。回収率は58.3%と高く、市のごみ処理への関心の高さがうかがえる。

### 家庭から出る可燃ごみの有料化について

家庭から出る可燃ごみの有料化について、賛成は42.2%、反対は44.3%と同程度の割合となっている。また、前回調査と比較すると、賛成が8.4ポイント増加し、反対が11.3ポイント減少している。

賛成意見としては、「新たなサービスの充実を期待するから」の割合が42.7%と最も大きく、前回調査からも8.3ポイント増加しており、費用負担を好意的に受け止めている市民の意向が強くなっている傾向がうかがえる。しかし、反対意見では「家計の経済負担が増えるから」の割合が29.0%と最も大きくなっており、有料化することで発生する新たな費用を負担と考えている市民の意向がうかがえることから、賛成と反対の意見が大きく分かれているところである。

### プラスチック製容器包装の分別収集について

プラスチック製容器包装の分別収集について、賛成は48.9%、反対は33.7%と賛成の割合の方が大きくなっている。地域別の傾向を見ても、すべての地域で賛成の割合が大きくなっており、地域による明確な差は見られなかった。

また、前回調査と比較すると、賛成意見は3.4ポイント増加し、反対意見は5ポイント減少している。賛成の理由は、「二酸化炭素の排出が削減されるから」が21.1ポイント増加しており、反対の理由は「エネルギー回収・利用した方が良い」が7.1ポイント増加していた。賛成意見と反対意見ともに、環境問題に関連しており、環境意識が高まっていることがうかがえる。

### 食品ロスについて

食品ロスについて、「言葉も意味も知っていた」割合は84.9%と、認知度は非常に高くなっている。

また、前計画で、ふなばしチャレンジ7プロジェクトとして推進してきた「食べ残しをなくす」と「買い物前には、冷蔵庫の中身などを確認してから買い物に行く」については、60%以上が取り組んでおり、一定の効果があったものと考えられる。

一方、「フードバンク等に提供している」等といった取組を実施している割合は1.3%と小さく、今後も引き続き食品ロス削減のための様々な取り組みについて、周知啓発することが必要と考えられる。

## 市の取組の認知状況について

ごみに関する情報の入手先については、「家庭ごみの出し方」「広報ふなばし」「資源物とごみの分別ガイド」「船橋市ホームページ」の割合が高くなっているが、60代、70代以上では「船橋市ホームページ」を利用している割合が低くなっているため、各年代に対して効果的な情報発信をしていく必要がある。

また、市が実施している取組の認知状況について、「すべて知らない」の割合が18.5%であったことや、スプレー缶の分別については、「分別や排出方法が分からない」、「面倒だから」といった理由で分別を実施していないという回答が一定数あったことから、資源物の排出方法等について、引き続き積極的な周知をしていく必要がある。